TOTO

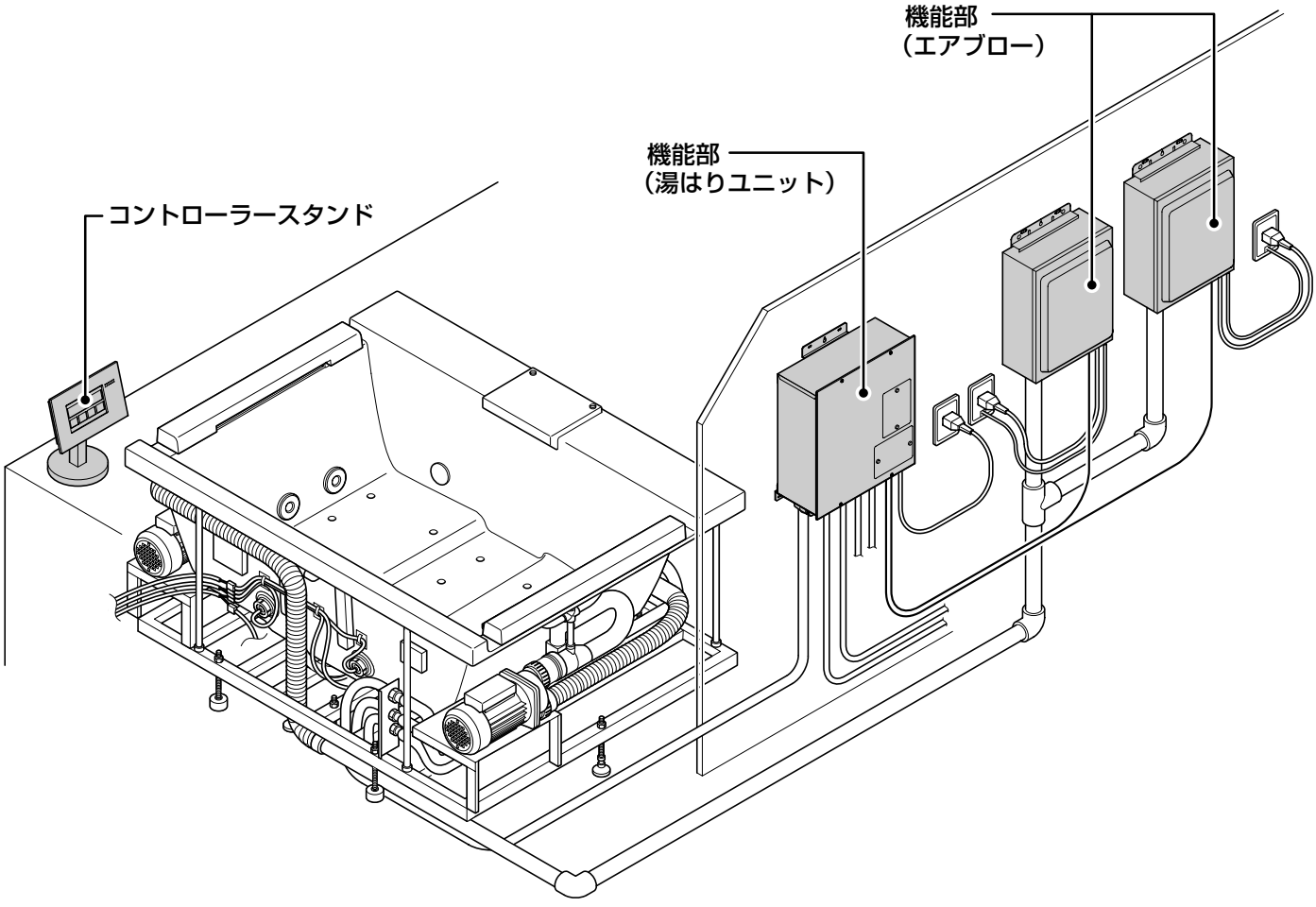
取付説明書

スーパーエクセレントバス

PVY181AH

製品の機能が十分に発揮されるように、この取付説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

■ このたびはTOTOスーパーエクセレントバスをご採用いただきましてありがとうございました。
■ 製品の機能が十分発揮されるように、この「取付説明書」の内容にそって正しく施工してください。
■ 浴槽据付・機能部取付など各種施工と電気・水道工事は工程を十分に打合わせのうえ行ってください。
■ 工事完了後は、お客様に操作説明を行い、この取付説明書と同封の「取扱説明書」をお渡しください。
■ 取付説明書に記載の品番は、改訂する場合がありますので、ご了承ください。



もくじ

[ ] で囲まれた項目は「エアブロー　取付説明書」を参照してください。

1. 安全上の注意 ……5～9
1－1 浴槽……6
1－2 機能部……8
2. セット内容 ……10～11
2－1 浴槽 ……10
2－2 ケーブル ……10
2－3 コントローラースタンド ……11
2－4 機能部 ……11
3. 準備するもの ……12
4. 寸法図及び仕様 ……13～15
4－1 浴槽とコントローラースタンドと機能部 ……13
4－2 仕様一覧 ……15
5. 施工手順 ……16
6. 施工上の注意 ……17～20
6－1 浴槽 ……17
6－2 機能部 ……18
・湯はりユニット ……18
[・エアブロー] ……18
6－3 お掃除シャワーの取付け条件 ……19
(1) 使用水圧の確認 ……19
(2) 給湯温度の確認 ……19
(3) 配管について ……19
6－4 機能部の設置場所 ……20
・湯はりユニット ……20
[・エアブロー] ……20
7. 施工手順 ……21～47
7－1 浴槽下地づくり～浴槽据付け ……21
(1) 下地づくり ……21
[(2) 配管取出口の壁開口と防水処理] ……21
(3) 排水配管接続 ……21
(4) 浴槽の据付け ……22
(5) 給水・給湯・湯はり配管接続 ……23
(6) ケーブル接続 ……23
(7) アース線の接続 ……25
7－2 機能部の設置 ……25
(1) 事前準備 ……25
(2) 機能部の設置 ……26
(3) 機能部取付けのネジ穴の位置決め ……26
(4) 機能部の取付け ……27
(5) 設備配管工事 ……27
(6) 湯はり配管の水漏れ検査 ……28
(7) 給水・給湯・湯はり配管工事 ……29
[7－3 機能部（エアブロー）の設置と接続] ……29
7－4 電気工事 ……30
・湯はりユニット ……30
[・エアブロー] ……31

７－５　確認および試運転 ……32
■コントローラーの接続 ……32
■湯はりユニット本体の通電確認 ……32
■フロートスイッチの動作確認 ……33
（1）動作確認手順 ……33
（2）エラー解除手順 ……34
■試運転準備 ……35
■試運転 ……35
（1）浴槽データリセット ……35
（2）湯はり運転の確認 ……36
（3）エアブロー運転の確認 ……36
（4）ハイドロハンズ・肩湯運転の確認 ……37
（5）水中照明運転の確認 ……37
（6）シャワーの確認 ……38
（7）排水運転の確認 ……38
（8）試運転の終了 ……39
■不具合時の対処方法 ……39
■水抜栓ストレーナの掃除 ……41
７－６　仕上げ ……43
（1）浴槽の固定 ……43
（2）タイル仕上げ ……44
７－７　コントローラースタンド設置 ……45
（1）下穴けがき・穴あけ・プラグ取付け ……45
（2）台座の取付け ……46
（3）スリップリングの取付け ……47
（4）コントローラースタンドの取付け ……48
７－８　まくらの取付け ……49
７－９　配管取出口カバーの取付け ……49
７－10　最終確認 ……49

1. 安全上の注意

●安全のために必ずお守りください。

取付け工事の前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。

この取付説明書では、製品を安全に正しく取り付けていただき、使用者への危害や財産への損害および工事業者への危害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味はつぎのようになっています。

表　示	意　　味
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

下に示す表示は取付説明書や製品に表示して、工事業者の方に安全に正しく製品を取り付けていただくためのものです。内容をよく理解して正しく取り付けてください。

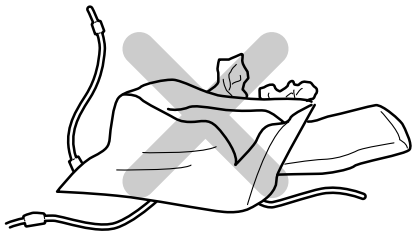
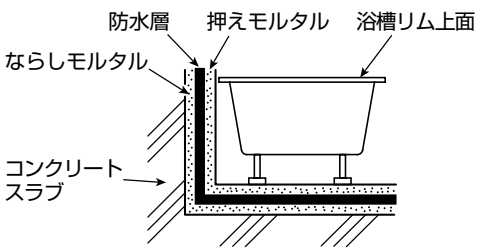
表　示	意　　味
⃠	行ってはいけない「禁止」の内容です。
❗	必ず実行していただく「強制」の内容です。

取付け工事完了後、器具のがたつきや漏水など安全上の不具合がないことを確かめてください。

製品に同梱されている取扱説明書は、使用者に製品を正しく安全に使用していただくための重要なものです。紛失したり汚れたりしないように大切に保管し、工事完了後、使用者又は建築工事責任者にお渡しください。

1－1 浴槽

⚠ 警告

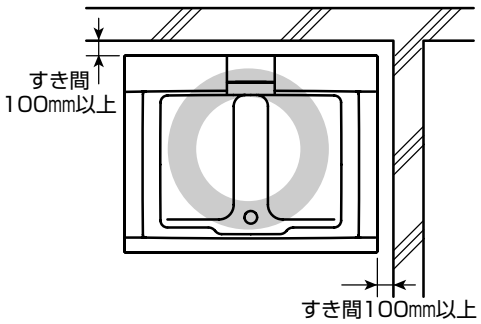
必ず実行	設置は、取付説明書にしたがって確実に行う 工事に不備があると漏水により家財などを汚したり、腐らせるおそれがあります。
禁　止	浴槽に搬入の際、浴槽配管やノズル本体などを持ったり、硬いものを、ぶつけたりしない 浴槽にひびが入りケガをしたり、または漏水により家財を汚したり腐らせるおそれがあります。
禁　止	浴槽の上に乗って作業をしない 足をすべらせてケガをしたり、製品に傷をつけるおそれがあります。
必ず実行	排水配管の取付けは、手順にしたがって確実に行う 工事に不備があると漏水し、家財を汚したり腐らせるおそれがあります。
必ず実行	開梱後、不要になった梱包材はすみやかに処分を行う 木枠・釘・段ボールや締付バンドなどでケガをするおそれがあります。 また、ビニール袋などは子供などがかぶって遊び、思わぬ事故につながるおそれがあります。 
必ず実行	必ず防水層を設ける また、防水層は浴槽リム上面以上の高さまで設ける 工事に不備があると漏水し、家財などを汚したr腐らせるおそれがあります。また、照明機器の故障など、製品に影響をおよぼすおそれがあります。  （防水例）

⚠ 注意

必ず実行

浴槽を据付ける際、壁・タイルと浴槽の間には、100mm以上、すき間を設けるまた浴槽周囲のコーキングは、手順にしたがって確実に行う

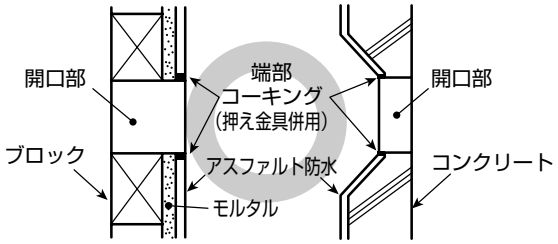
浴槽の熱膨張により、タイルなどの壁材を破損したり、漏水により家財などを汚したり腐らせるおそれがあります。



必ず実行

配管・配線の取出口開口部の防水処理は確実に行う

工事に不備があると漏水し、家財などを汚したり腐らせるおそれがあります。

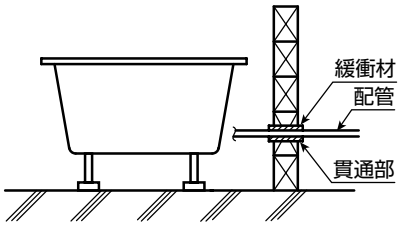


(防水処理例)

必ず実行

デッキ、壁に配管を貫通させる場合は、緩衝材を巻いて配管を保護する

破損の原因となります。



1−2 機能部

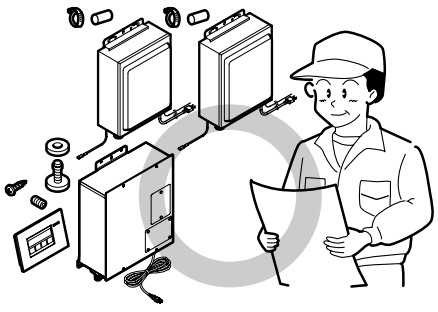
⚠ 警告

必ず実行

設置は、取付説明書にしたがって確実に行う

設置が不完全な場合、感電や火災などの原因となります。

また、漏水により家財などを汚したり、腐らせるおそれがあります。



1−2 機能部

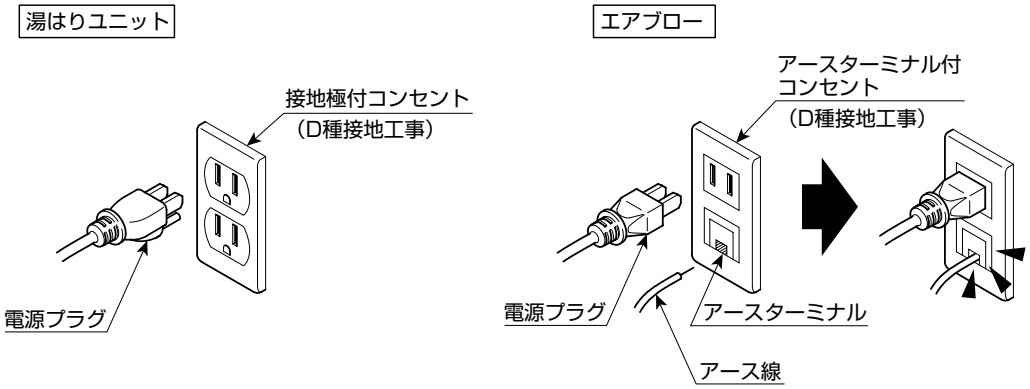
⚠ 警告

アース接続

電気工事は、関連する法令・法規にしたがって必ず「有資格者(電気工事士)」が行う

誤った工事を行うと故障や漏電のときに感電するおそれがあります。
また、この製品は必ずD種接地工事を行ったアースターミナル付コンセントおよび接地極付コンセントを使用する。
誤った工事を行うと故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

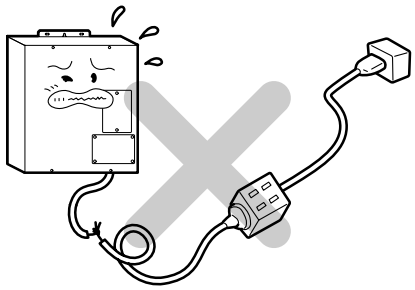
・湯はりユニット機能部
・エアブロー機能部
} 屋内設置のみ可能です。



禁　止

電源コードの加工や延長コードを使用又は他の器具とのタコ足配線をしない

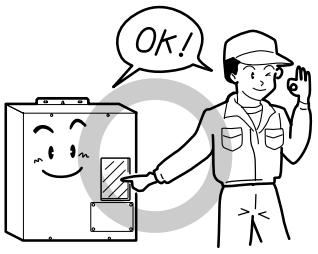
感電や発熱・火災の原因となります。



必ず実行

施工完了後、漏電ブレーカの作動確認を必ず行う（湯はりユニットのみ）

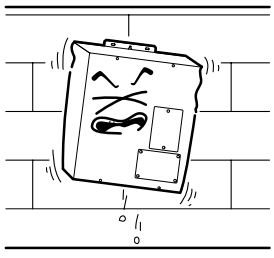
漏電ブレーカが正常に作動しないと、感電や火災の原因となります。



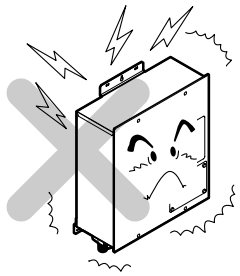
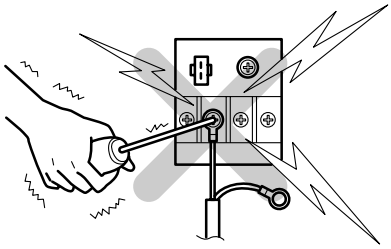
必ず実行

機器の設置は、質量に十分耐える安定した場所に取付説明書通りに確実に行う

設置に不備があると、機器の落下、転倒によりケガをするおそれがあります。



⚠ 警告

必ず実行	メタルラス張り、ワイヤラス張りなどの木造の造営物に機能部を取付ける場合、機能部と造営物とは電気的に接続しないようにする 感電や発熱・火災の原因となります。 
必ず実行	機能部の配線接続時は、機能部の電源が入っていないことを確認する 感電の原因となります。 
禁　止	ガス、灯油類や引火物の近くに設置しない 火災の原因になります。
禁　止	浴室など湿気の多い場所には設置しない 浸水する可能性のある場所には設置しない 故障、感電の原因になります。

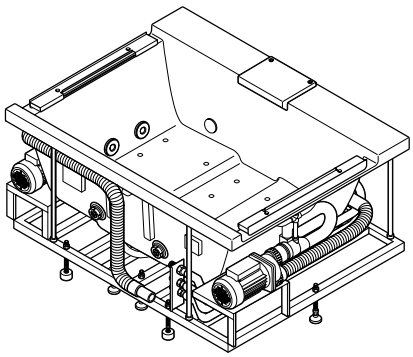
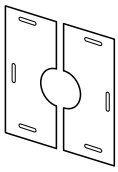
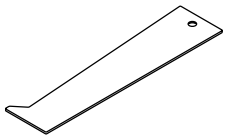
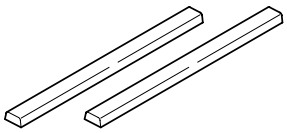
⚠ 注意

必ず実行	必ず凍結予防対策を行う（湯はりユニット） 配管が凍結し機器や配管が破損する可能性があります。
禁　止	水道水以外は、通水しない（湯はりユニット） 井戸水などを通水すると腐食などにより漏水するおそれがあります。
必ず実行	機能部からの漏水による被害が予想される場所に設置する場合は、必ず床面の防水処理工事をする（湯はりユニット） 万一、漏水した場合、階下などに被害をおよぼすおそれがあります。

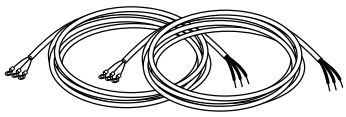
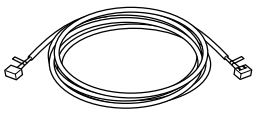
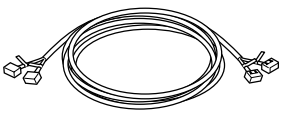
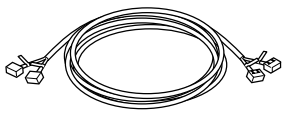
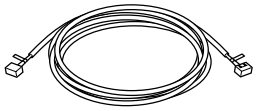
2. セット内容

●製品を開梱しましたら、下記内容にそって部品と個数を確認してください。
（全部で４梱包あります。）

2−1 浴槽

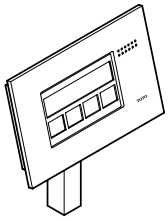
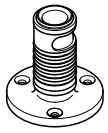
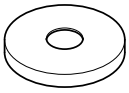
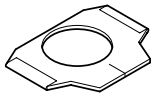
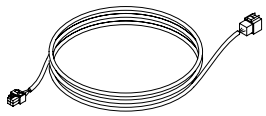
品　名		個数	形　状	品　名	個数	形　状
浴槽本体部	浴槽 本体	1		取付説明書 （浴槽本体）	1	
				取付説明書 （エアブロー）	1	
	カール プラグ	6		取扱説明書	1	
	取付ねじ （φ3.5×25）	6				
	配管取出口 カバー	1		吐水口 掃除用ヘラ	1	
まくら		2		目地 バックアップ材	1	

2−2 ケーブル

品　名	個数	形　状	品　名	個数	形　状
ポンプ 接続ケーブル	2		残水センサー 接続ケーブル	1	
水中照明 接続ケーブル	1		水位センサー／ コントローラー 接続ケーブル	1	
フロートスイッチ 接続ケーブル	1				

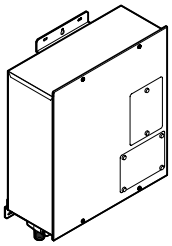
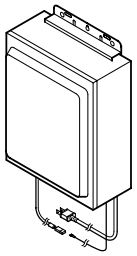
※ケーブルは浴槽に同梱されています。

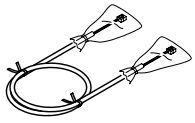
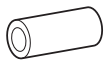
2−3 コントローラースタンド

品　名	個数	形　状	品　名	個数	形　状
コントローラー スタンド組品	1		台座組品	1	 （Oリング・ 保護シート付）
			台座カバー	1	
スリップリング 組品	1	 （スリップリング入り）	コントローラ 分岐コード	1	
六角穴付止ねじ M4×4	2	（予備1ヶ）	十字なべ タッピンねじ 4×30 （台座固定用ねじ）	3	

※浴槽に同梱されています。

2−4 機能部

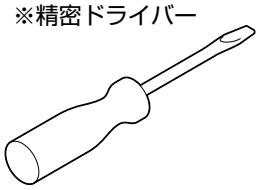
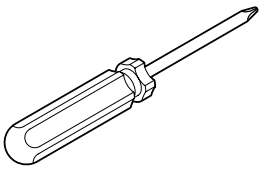
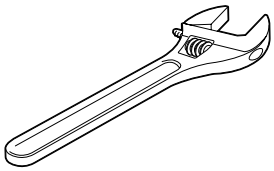
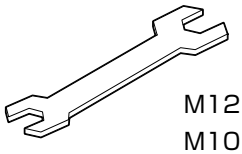
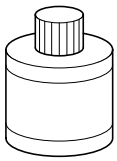
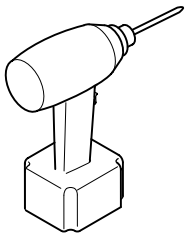
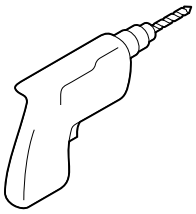
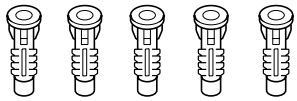
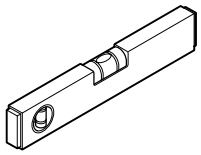
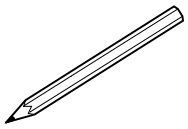
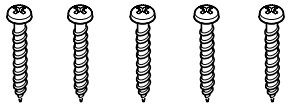
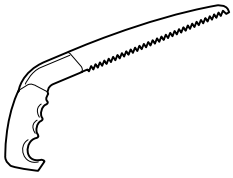
品　名	個数	形　状
湯はりユニット	1	
エアブロー	2	

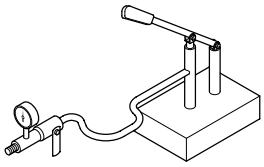
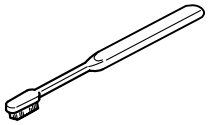
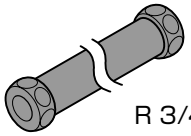
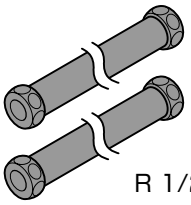
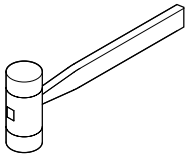
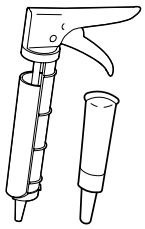
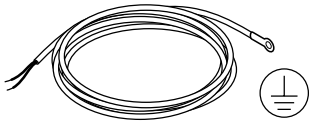
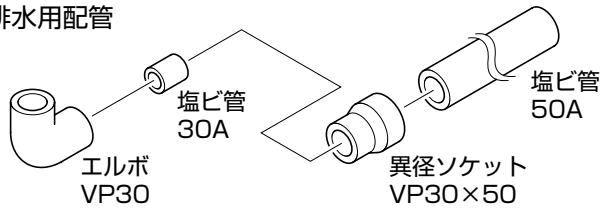
品　名	個数	形　状
エアブロー 接続ケーブル （2m）	2	
ホースバンド	4	
ホース	2	

※接続管用塩ビ配管部材（VP20（直管）・TS部材（20A）・普通塩ビ用接着剤・配管支持用サドルバンド・配管用緩衝材）は現場で手配願います。
※梱包数は浴槽とは別に湯はりユニット1梱包、エアブロー2梱包の計3梱包あります。

3. 準備するもの

※エアブローに関してはエアブロー取付説明書の中の「準備するもの」を参照してください。

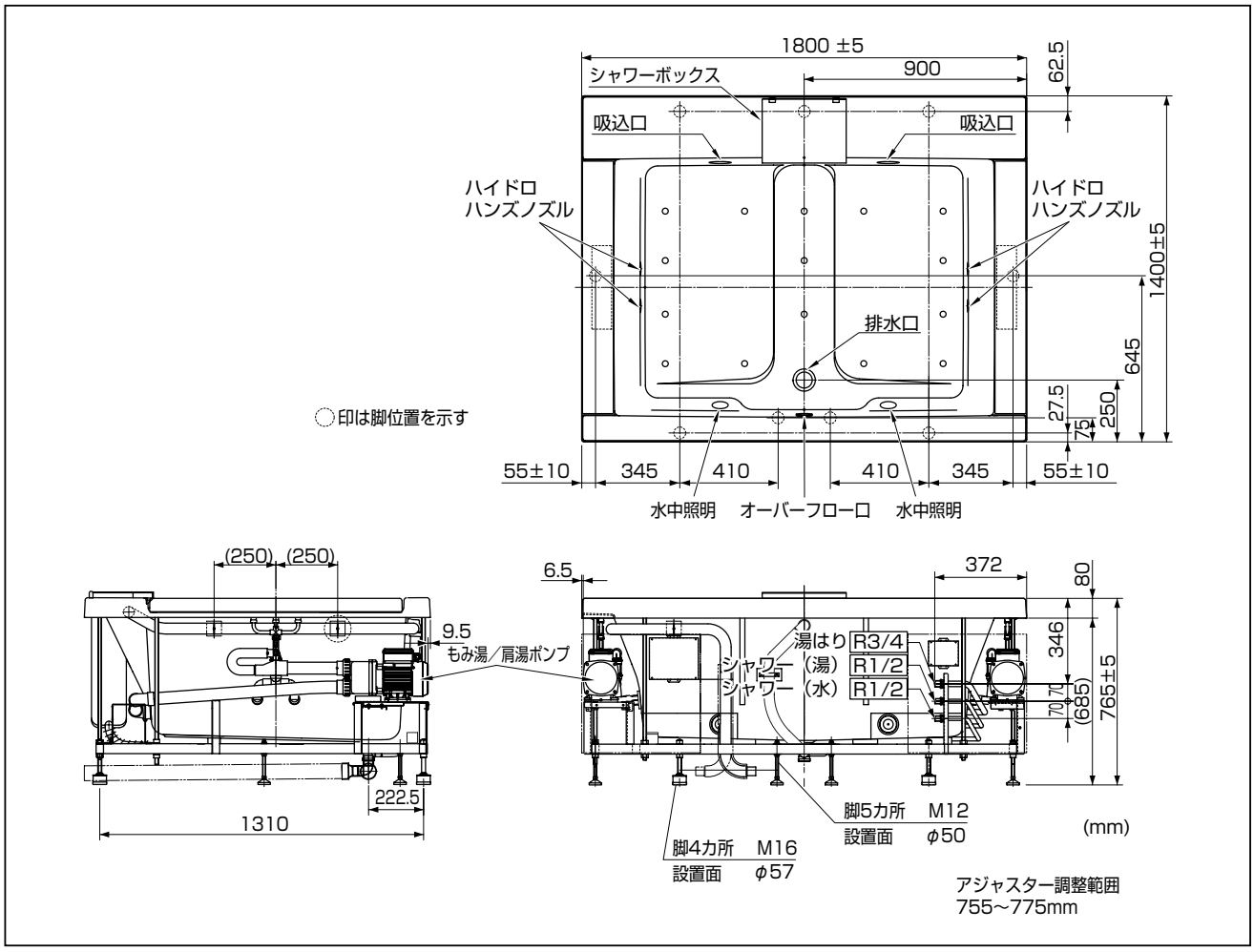
<table>
<tr>
<td>マイナスドライバー
※精密ドライバー
  </td>
<td>プラスドライバー
  </td>
<td>スパナ
  </td>
<td>レンチ
 
M12
M10
M8</td>
</tr>
<tr>
<td>接着剤（PVC用）
  </td>
<td>電動ドライバー
  </td>
<td>ドリル
  </td>
<td>カールプラグ
  </td>
</tr>
<tr>
<td>水準器
  </td>
<td>えんぴつ
  </td>
<td colspan="2">タッピンねじ
 
4×30</td>
</tr>
<tr>
<td>のこぎり
  </td>
<td>六角レンチ

M4</td>
<td>加圧ポンプ
  </td>
<td>歯ブラシ
  </td>
</tr>
<tr>
<td>接続用配管（湯はり用）
 
R 3/4</td>
<td>接続用配管（給湯・給水用）
 
R 1/2</td>
<td>ハンマー
  </td>
<td>シリコン
  </td>
</tr>
<tr>
<td colspan="2">アース線
  </td>
<td colspan="2">排水用配管
 
塩ビ管
30A
塩ビ管
50A
エルボ
VP30
異径ソケット
VP30×50</td>
</tr>
</table>

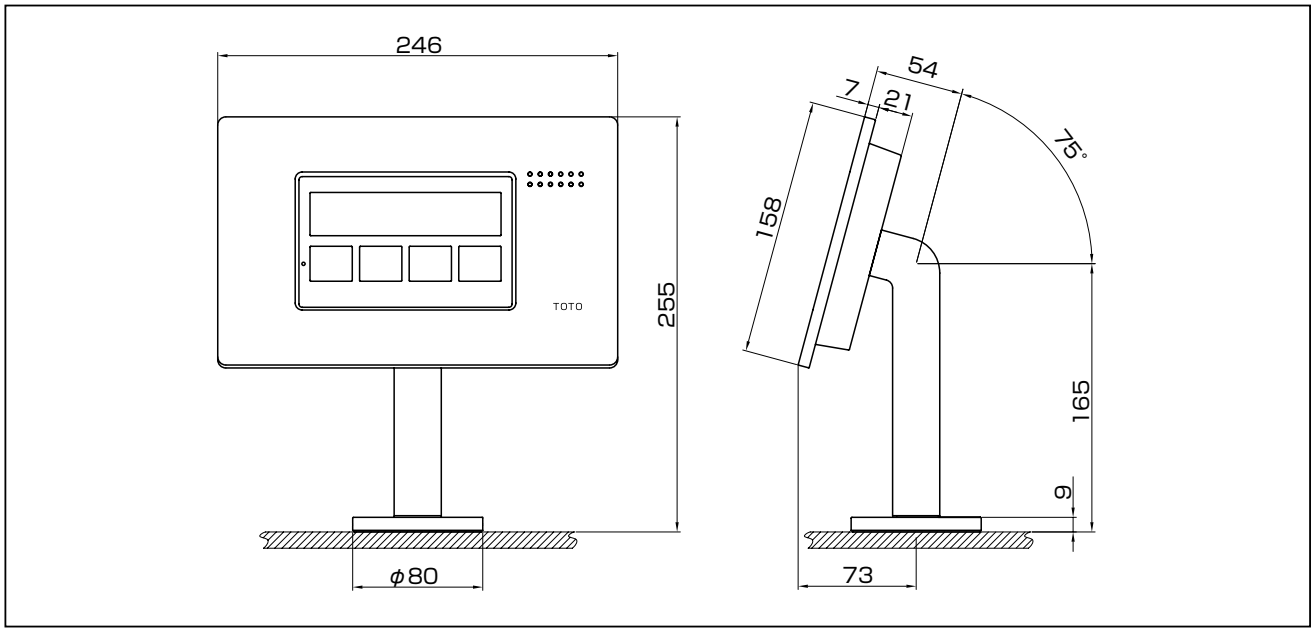
4. 寸法図及び仕様

4−1 浴槽とコントローラースタンドと機能部

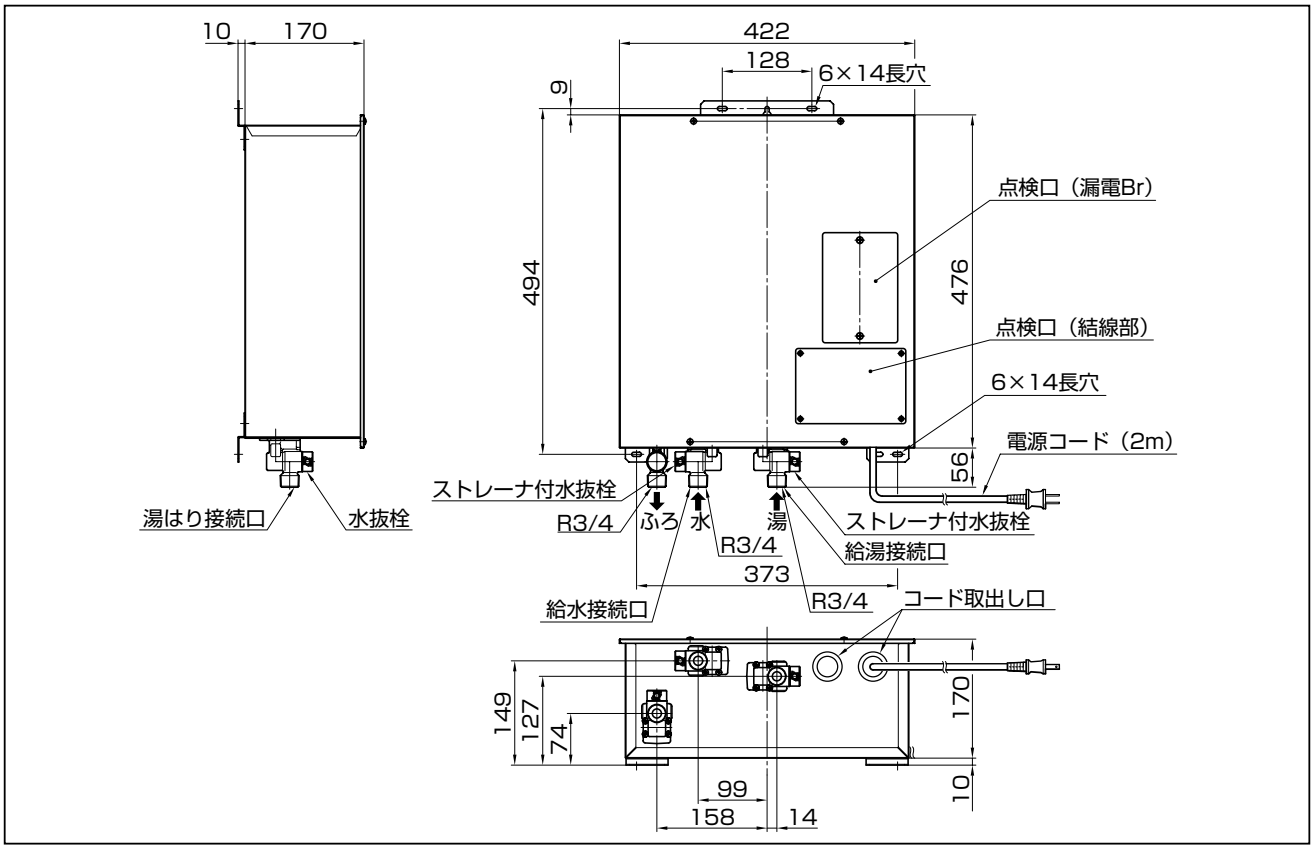
■浴槽



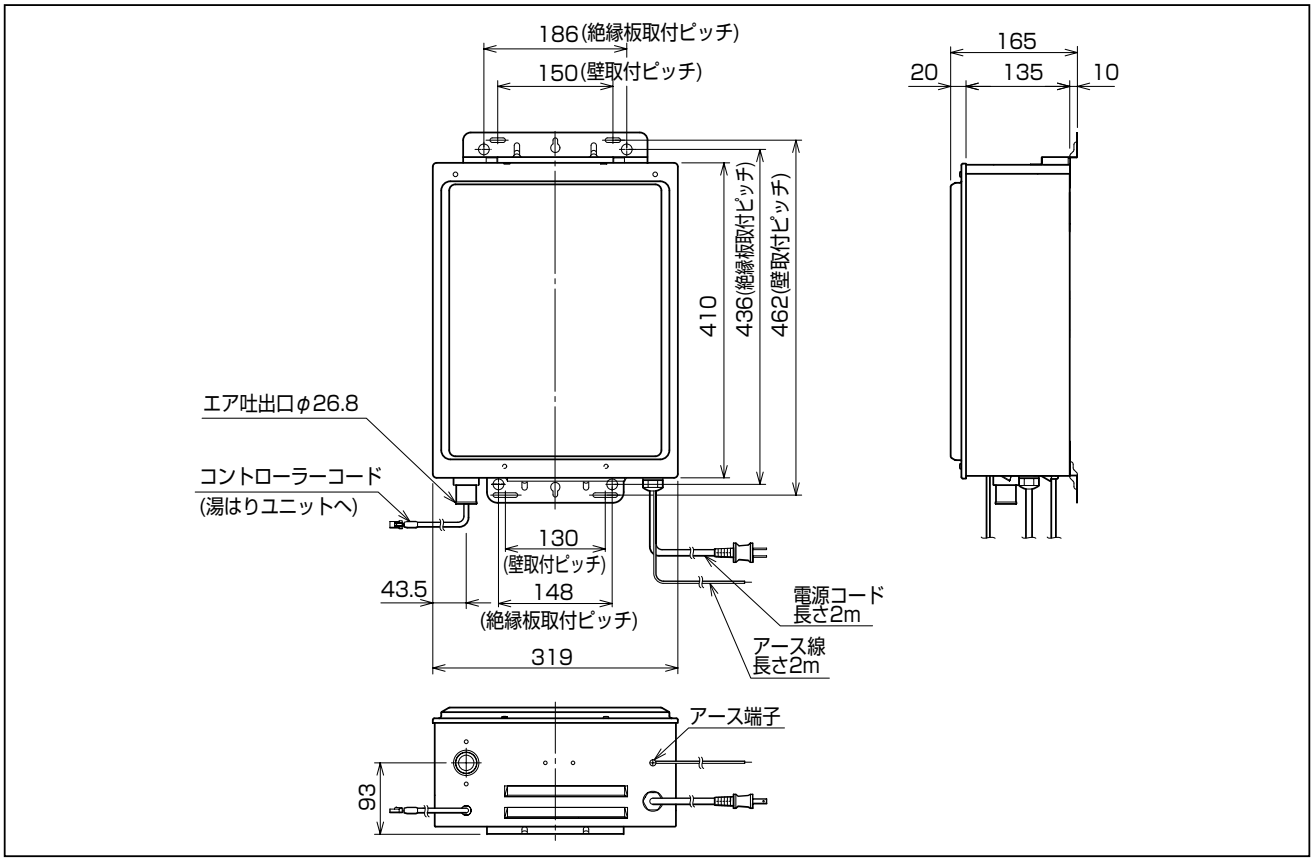
■コントローラースタンド



■機能部（湯はりユニット）



■機能部（エアブロー）　※2台取り付けます



4−2 仕様一覧

浴　槽	外寸（mm）			1800（幅）×1400（奥行）×765（高さ）※1
	質量			180kg
	容量			570L（オーバーフロー口まで）
	材質			アクリル系人工大理石
	湯はり	吐水口数		1カ所（滝状吐水）
		湯はり流量		最大 35L/min（機能部により制御）
	エアブロー	噴出口数		浴槽底面15カ所
		噴出エア量		最大 370L/min（15カ所合計、機能部により制御）
	肩湯	吸込口数		2カ所（ハイドロハンズと共用）
		吐水口数		2カ所
		吐水流量		最大 38L/min（2カ所合計）
	ハイドロハンズ	吸込口数		2カ所（肩湯と共用）
		吐水口数		4カ所
		吐水流量		最大 150L/min（4カ所合計）
	水中照明	照射部数		2カ所
		照射色数		パターン3種類、単色10色
	お掃除用シャワー（2ハンドル）	用途		浴槽清掃用
		使用水圧	最低必要水圧（流動時）	0.08MPa
			最高水圧（静止時）	0.75MPa
		使用水温	給湯	70℃以下
			給水	0～30℃（凍結なきこと）
		接続口径	給湯	R 1/2
			給水	R 1/2
	湯はり接続口径			R 3/4
コントローラースタンド	外寸（mm）			246（幅）×113（奥行）×255（高さ）
	質量			2.8kg（コントローラ含む）
	回転角度			90°
機能部（湯はりユニット）	外寸（mm）			422（幅）×180（奥行）×476（高さ）※2
	質量			14kg
	定格電圧			AC100V
	定格周波数			50/60Hz
	定格電流			9A/12A
	定格消費電力			750/1150W
	待機時消費電力			7.5W
	設置場所			屋内（浴室以外の、結露・被水・凍結しない場所）
	使用水圧	最低必要水圧（流動時）		0.20MPa
		最高水圧（静止時）		0.75MPa
	使用水温	給湯		60～70℃
		給水		0～30℃（凍結なきこと）
	接続口径	給湯		R 3/4
		給水		R 3/4
		湯はり		R 3/4
	安全装置			連続運転防止装置、過電流保護装置、漏電安全装置
機能部（エアブロー）	品名			エアブロー　機能部
	外寸（mm）			319（幅）×165（奥行）×410（高さ）
	本体質量			7.2kg / 1台
	定格電圧			AC100V
	定期周波数			50Hz/60Hz（共用）
	定格電流			2.5A / 1台
	定格消費電力			175W / 1台
	設置場所			壁掛形：屋内（浴室外）

※1：浴槽外寸高さは、浴槽支持架台を含む高さです。
※2：機能部の外寸高さは、接続口を除く高さです。

5. 施工手順

7−1　浴槽下地づくり
〜浴槽据付け（P21）
（1）下地づくり（P21）
（2）配管取出口の壁開口と
防水処理（P21）
（3）排水配管接続（P21）
（4）浴槽の据付け（P22）
（5）給水・給湯・湯はり
配管接続（P23）
（6）ケーブル接続（P23）
（7）アース線の接続（P25）

7−2　機能部の設置（P25）
（1）事前準備（P25）
（2）機能部の設置（P26）
（3）機能部取付けのネジ穴の
位置決め（P26）
（4）機能部の取付け（P27）
（5）設備配管工事（P27）
（6）湯はり配管の水漏れ検査（P28）
（7）給水・給湯・
湯はり配管工事（P29）

7−3　機能部（エアブロー）の
設置と接続（P29）

7−4　電気工事（P30）
湯はりユニット（P30）
エアブロー（P31）

7−5　確認および試運転（P32）
■コントローラーの接続（P32）
■湯はりユニット本体の通電確認（P32）
■フロートスイッチの動作確認（P33）
（1）動作確認手順（P33）
（2）エラー解除手順（P34）
■試運転準備（P35）
■試運転（P35）
（1）浴槽データリセット（P35）
（2）湯はり運転の確認（P36）
（3）エアブロー運転の確認（P36）
（4）ハイドロハンズ・
肩湯運転の確認（P37）
（5）水中照明運転の確認（P37）
（6）シャワーの確認（P38）
（7）排水運転の確認（P38）
（8）試運転の終了（P39）
■不具合時の対処方法（P39）
■水抜栓ストレーナの掃除（P41）

7−6　仕上げ（P43）
（1）浴槽の固定（P43）
（2）タイル仕上げ（P44）

7−7　コントローラー
スタンド設置（P45）
（1）下穴けがき・穴あけ・
プラグ取付け（P45）
（2）台座の取付け（P46）
（3）スリップリングの
取付け（P47）
（4）コントローラースタンドの
取付け（P48）

7−8　まくらの取付け（P49）

7−9　配管取出口カバーの
取付け（P49）

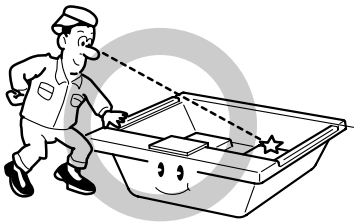
7−10　最終確認（P49）

6. 施工上の注意

6−1 浴槽

●スーパーエクセレントバスの施工において必ず守ってください。

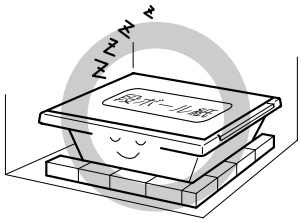
1 浴槽据付け前に、浴槽本体・配管に異常がないことを確認する



2 脚立などを浴槽内に立てたり、浴槽の縁に重たいものをのせない

（破損の原因となります。）

3 浴槽の養生シートをはがさない
また、浴室工事が終わるまで浴槽を段ボールなどで養生しておく

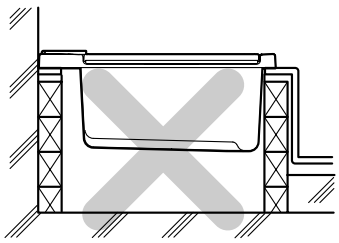


（破損の原因となります。）

4 トーチランプの火を当てたり、火のついたタバコを浴槽にのせない

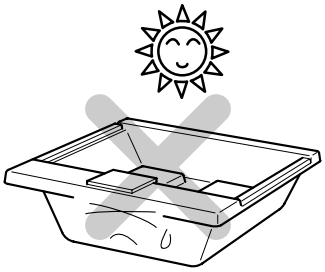
（破損の原因となります。）

5 リム面だけで支える施工は行わない



（破損の原因となります。）

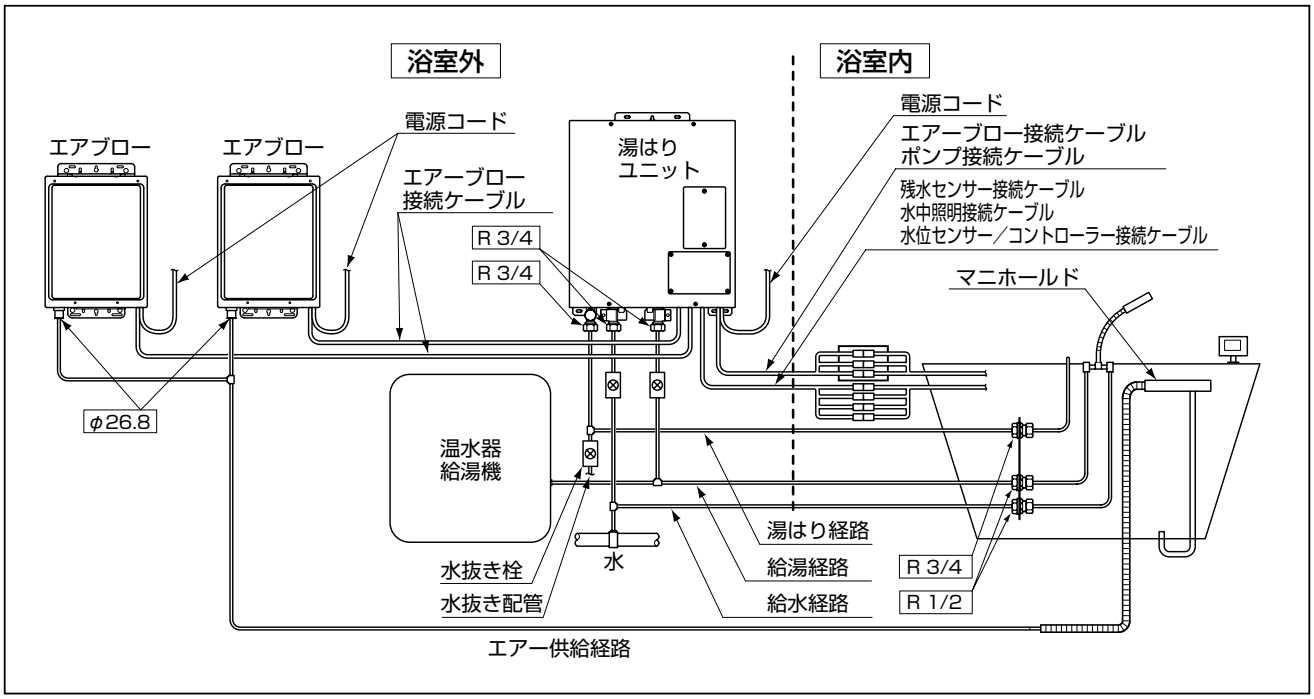
6 浴槽は屋外や常時日の当たる場所（サンルームなど）に設置しない



（浴槽の変色の原因となります。）

7 浴槽搬入の際、ホースや配管を持ったり、硬いものをぶつけたりしない

6−2 機能部



湯はりユニット

●機能部への湯の供給温度は60℃以上必要です。（70℃以下）
湯の供給温度が低いとコントローラーで設定した温度で湯はりできなくなります。
機能部は供給された水と湯を混合して湯はり吐水口からお湯を出しますので、吐水温度は機能部への湯の供給温度よりも低くなります。

●機能部への給水圧・給湯圧は流動時に0.2MPa以上必要です。（静止時は0.75MPa以下としてください）
※湯水の差圧は、水＞湯で0.1MPa以内としてください。
圧力が低いと、滝状に吐水できません。また、浴槽にお湯が溜まるのに時間がかかります。

●給湯機などの給湯設備は下記条件
- 機能部への供給圧力：最低必要水圧（流動時）0.2MPa、最高水圧（静止時）0.75MPa
- 機能部への供給温度：60～70℃
- 機能部の湯の使用量
  - ・最高湯はり温度：60℃
  - ・最大湯はり流量：35L/min
  - ・最大湯はり量　：545L

●機能部の接続口径はR 3/4です。配管口径は、機能部の接続口径以下にしないでください。
機器の能力が十分発揮されず、お客様とのトラブルの原因になります。

●ねじ接続部は、シールテープとヘルメシールを合わせて使用してください。

●排水処理
水抜き配管先端と排水口は適切な吐水空間を設けてください。
空間がないと、溜まった水が逆流するおそれがあります。

エアブロー

●エアブローの取付説明書「施工上の注意」をご確認ください。

6−3 お掃除シャワーの取付け条件

●お掃除シャワーの取付けに当たっては、使用条件を必ず守ってください。

（1）使用水圧の確認

給水・給湯圧力
- 最低必要水圧（流動時）……0.08MPa
- 最高水圧（静止時）　　……0.75MPa

※給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。

（2）給湯温度の確認

●給湯温度は70℃まででお使いください。
なお、安全のため60℃給湯をおすすめします。

●給湯に **蒸気を使用しない** でください。

（3）配管について

●湯水を **逆配管しない** でください。
なお、給湯機からの給湯管は、抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

●凍らないよう配管に保温材を巻いて凍結予防対策を行ってください。

6−4 機能部の設置場所

湯はりユニット

●機能部は浴室以外の屋内の水のかからない所で結露、凍結しない場所に設置してください。

機器の点検・修理ができるように機器前方は600mm 以上の空間を設けてください。また、2階壁面など手の届かない所に設置しないでください。

●機能部の質量（14kg）に耐えられる強度のある場所に設置してください。

●機能部の設置場所は次を考慮して決めてください。

・浴槽に据え付けられた器具（ポンプなど）との接続ケーブルの長さ※1

※1　標準品は7mが同梱されています。別売で交換用長尺コード15m（品番PZ6081）を準備しています。

●万一、漏水しても家屋への被害がない場所に設置してください。

●漏水による被害が予想される場所に設置する場合は、床面に防水処理、排水処理を行ってください。

●階下へ浴槽を設置する場合

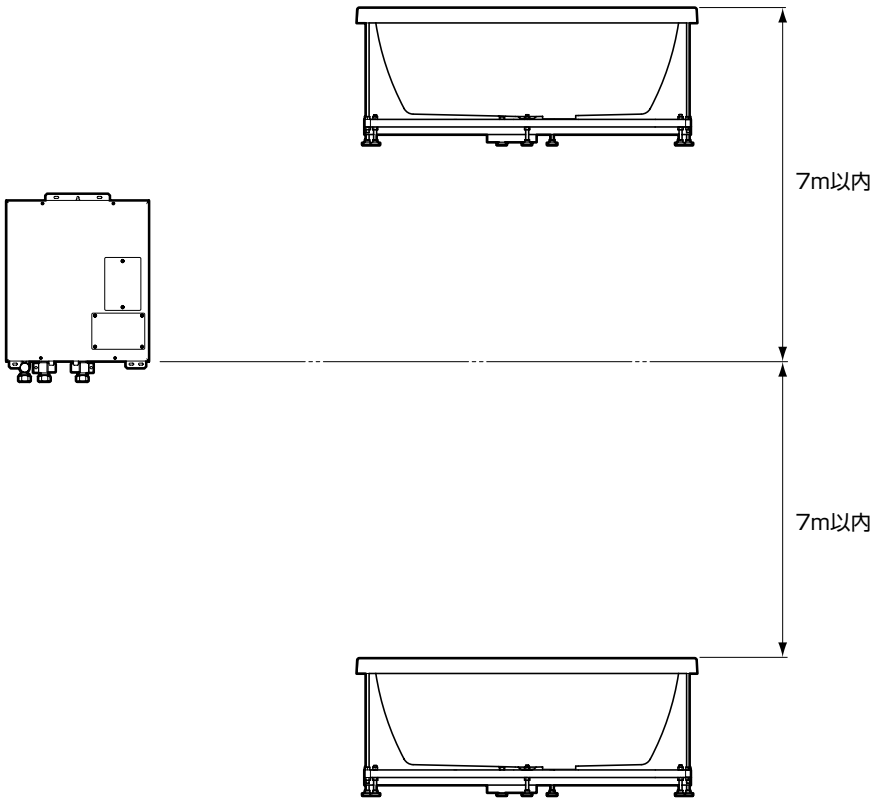
機能部底面と浴槽あふれ面の高低差は7m以内になるようにしてください。

●階上へ浴槽を設置する場合

機能部底面と浴槽あふれ面の高低差は7m以内になるようにしてください。
この場合、機能部への給水圧、給湯圧は0.2MPa＋高低差（水頭圧）以上確保してください。

●必ず垂直な壁に取り付けてください。

●機器の接続する配管設備は、地震、その他の振動または衝撃に対して安全上支障のないよう設置し、給水・給湯及び電気配線の壁貫通部はコーキング材でシールしてください。



エアブロー

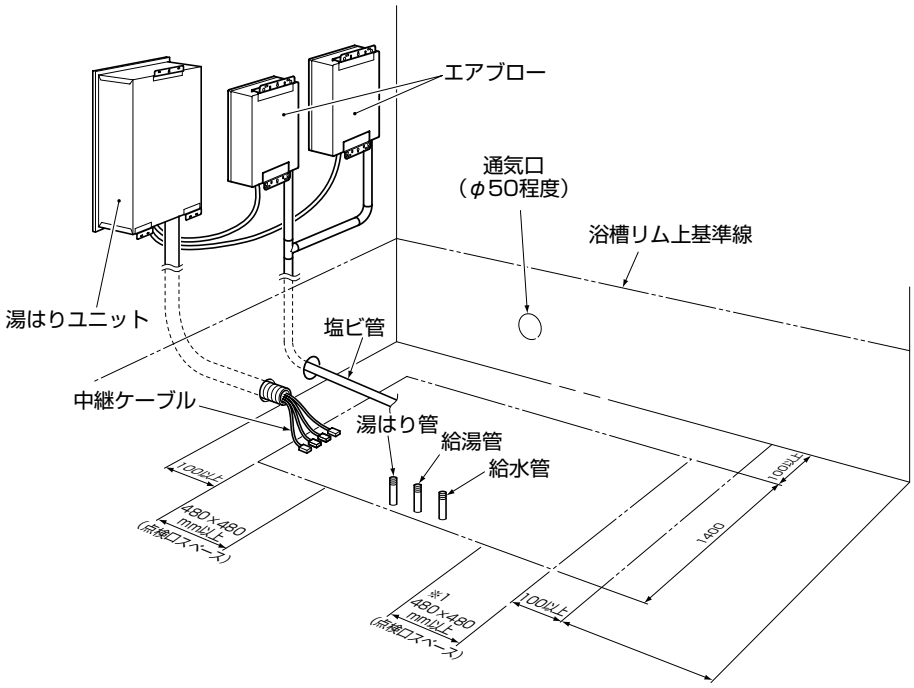
●エアブローの取付説明書「機能部の設置場所の選定」を参照してください。

7. 施工要領

7−1 浴槽下地づくり〜浴槽据付け

（1）下地づくり

●浴槽の外寸から100mm以上のクリアランスを確保し浴槽の据付位置を決めてください。
●浴槽リム上基準線より下側に通気口（φ50程度）を設けてください。
※機器の安全装置を作動させるために必要ですので必ず通気口を設けてください。
※通気口は必ず屋外に向けて開口し、外側よりベントキャップを取り付けてください。
●点検口の側に、給水・給湯・湯はり配管を立ち上げてください。
また、浴槽センター部と機能部（ポンプ）側に点検口を設けるよう、スペースを確保してください。
※給水・給湯配管には逆止弁と止水栓を取り付けてください。



（2）配管取出口の壁開口と防水処理

●エアブローの取付説明書を参照してください。

（3）排水配管接続　直接排水のみ

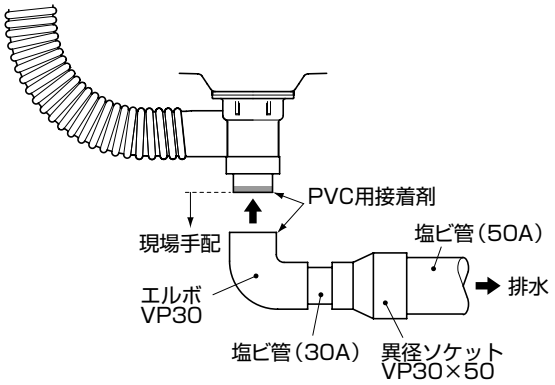
⚠ 警告

必ず実行

排水は直接排水のみでおこなう

・間接排水でおこなうと、湿気の影響により機器が故障するおそれがあります。必ず直接排水とし、ドライエリアを確保してください。

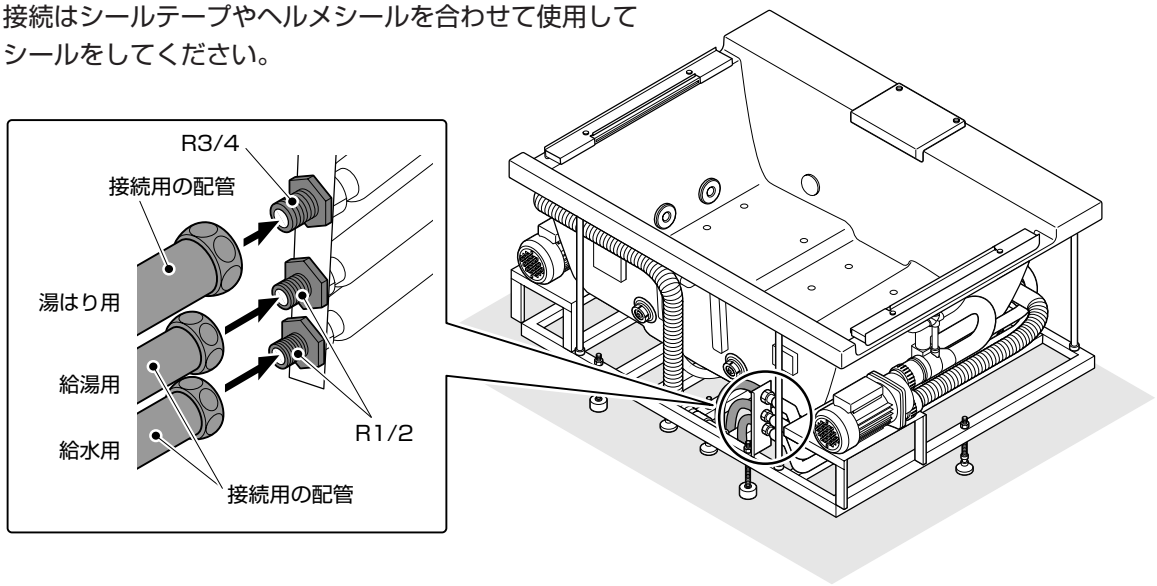
あらかじめ浴槽の排水金具に配管を接続してください。



●配管は全て現場手配となります。

（4）浴槽の据付け

●浴槽に、給水・給湯・湯はり配管接続用の配管を取り付けてください。
※接続はシールテープやヘルメシールを合わせて使用して
シールをしてください。

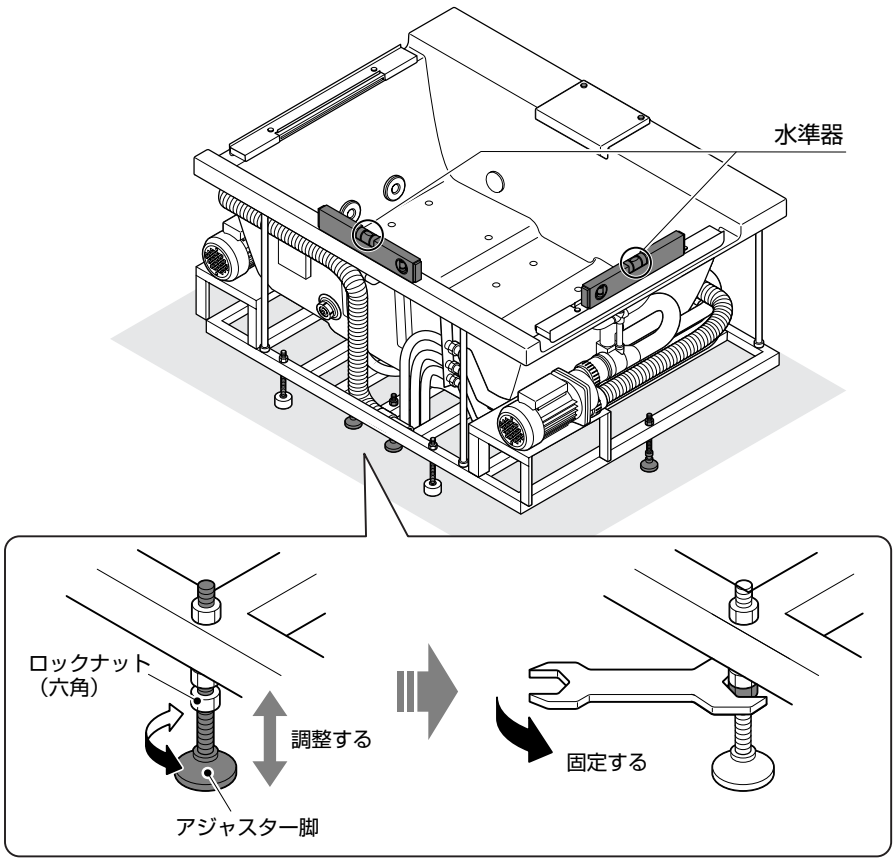


●浴槽は水平に据付けてください。

●浴槽の脚はアジャスターボルトになっていますので、ロックナット（六角）を緩めて水平調整してください。
※アジャスター脚の調整代は約± 10mmあります。

●浴槽水平出し微調整後、アジャスター脚のロックナットを締付けてください。

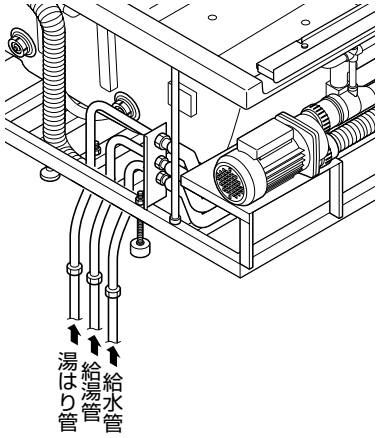
注　浴槽の水平出し調整後、浴槽底面の排水勾配がとられていることを水準器で確認してください。



（5）給水・給湯・湯はり配管接続

●あらかじめ立ち上げておいた給水・給湯・湯はり配管に、浴槽に取り付けておいた接続用配管を接続してください。

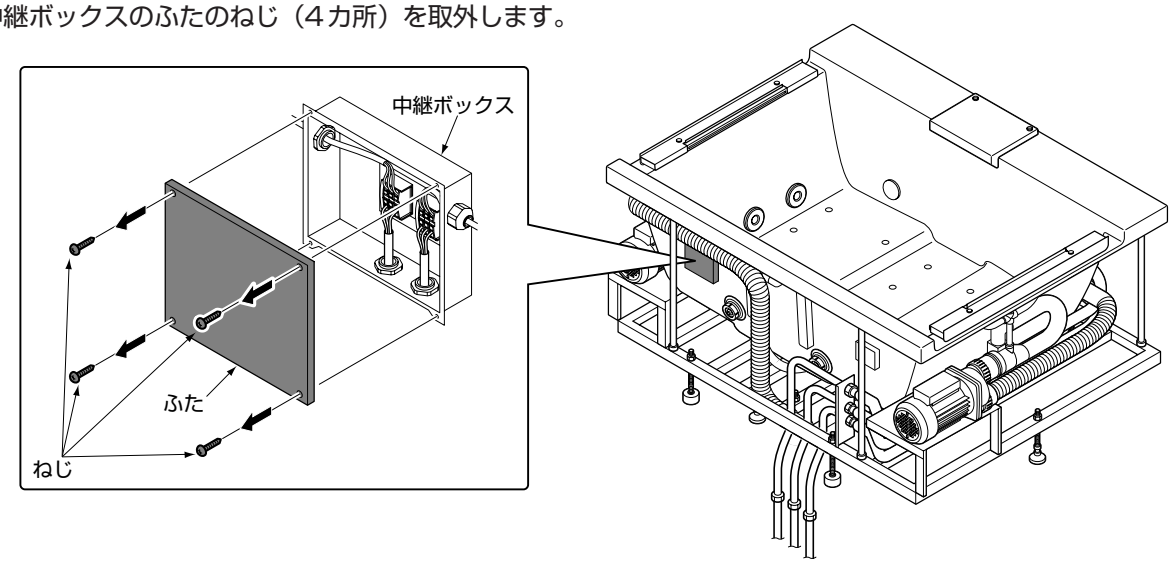
※接続はシールテープやヘルメシールを合わせて使用してシールしてください。



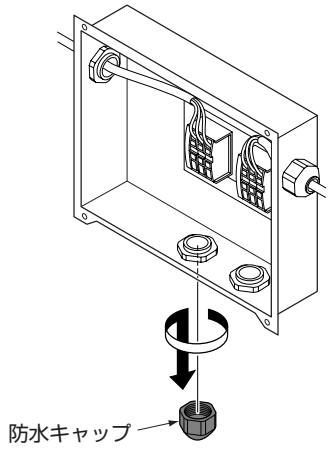
（6）ケーブル接続

①湯はりユニットと接続する接続ケーブルを浴槽側の中継ボックスにある端子台にそれぞれ接続する

●中継ボックスのふたのねじ（4カ所）を取外します。



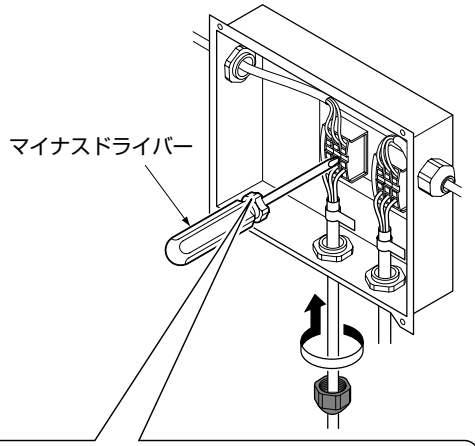
●防水キャップ（2カ所）を取外します。

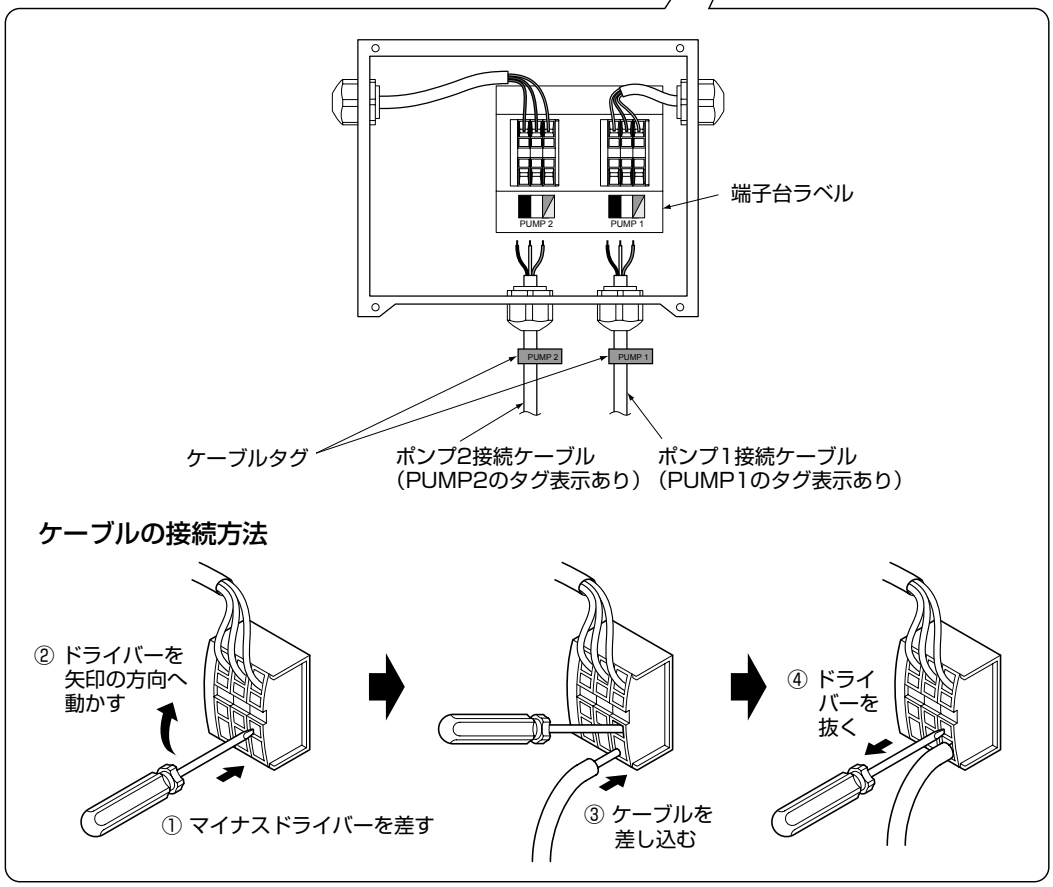


●接続ケーブルを防水キャップの中心を通し、中継ボックス内に挿入します。
※左からポンプ２接続ケーブル、ポンプ１接続ケーブルの順に挿入します。

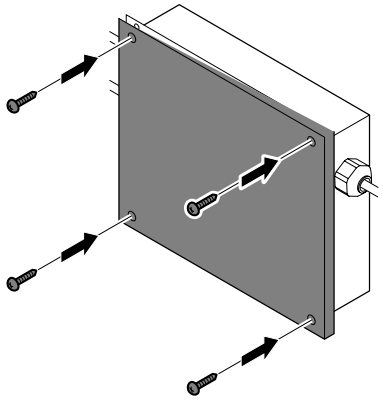
●接続ケーブルを端子台に接続します。端子台ラベルの色と接続ケーブルの色を合わせて接続してください。
※接続部はマイナスドライバーが必要です。

●接続部、接続ケーブルのタグ名称と端子台ラベルの名称が合致しているか確認してください。



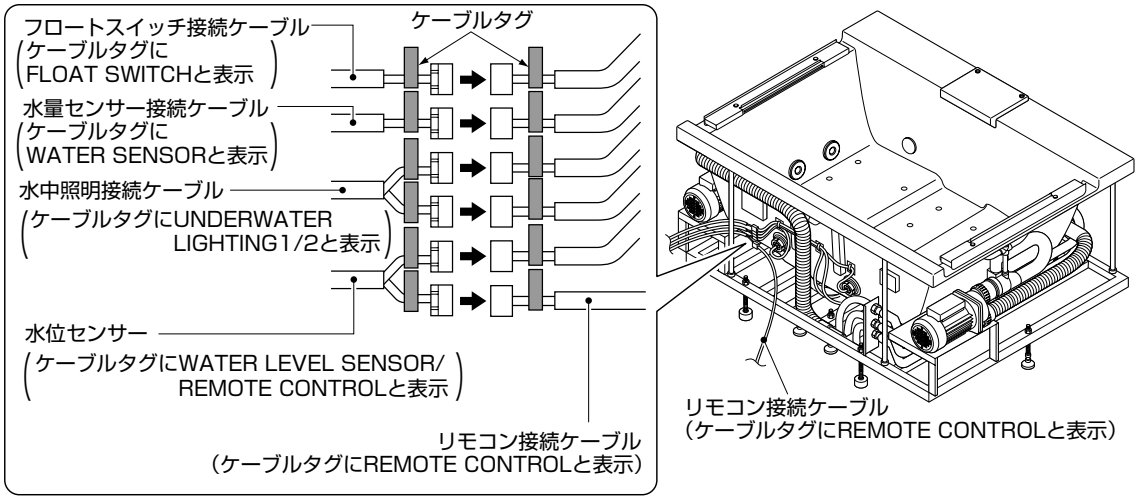


●中継ボックスのふたをねじ（４カ所）で取付けます。



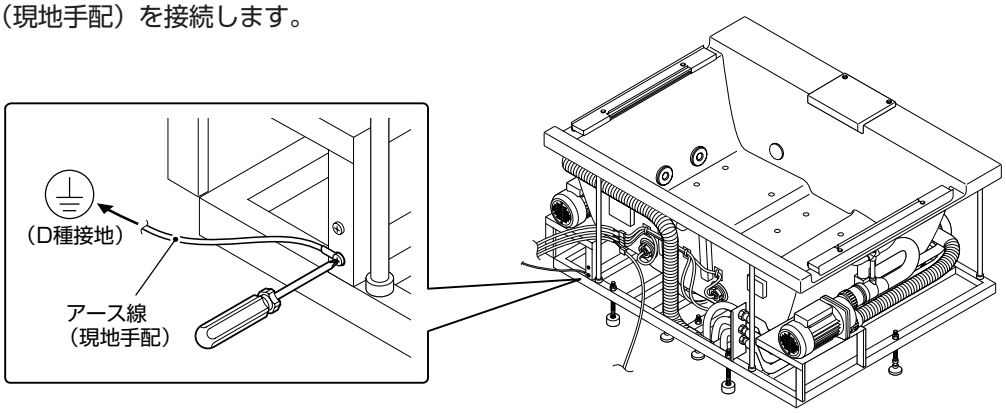
②湯はりユニットと接続する接続ケーブルを浴槽側の中継ボックス下部にあるケーブルとそれぞれ接続する

●接続ケーブルのタグ名称に合わせコネクタを接続してください。



(7) アース線の接続

●アース線（現地手配）を接続します。



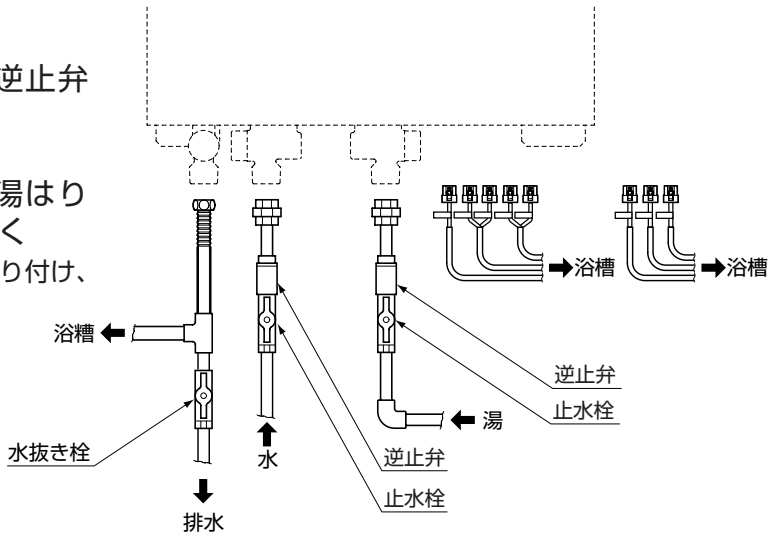
7−2 機能部（湯はりユニット）の設置

(1) 事前準備

①給水配管・給湯配管に止水栓と逆止弁を取り付ける

②浴槽と機能部間で接続が必要な湯はり配管、各ケーブルを引き回しておく

※湯はり配管には水抜き用のバルブを取り付け、適切な排水処理を行ってください。

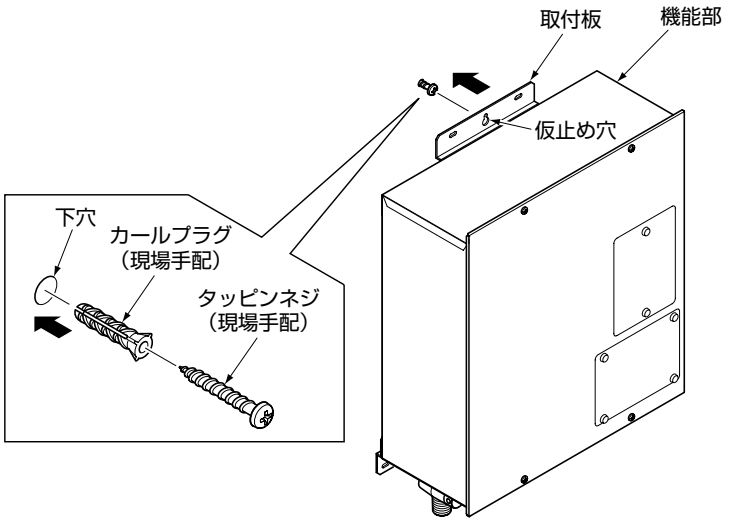


（2）機能部の設置

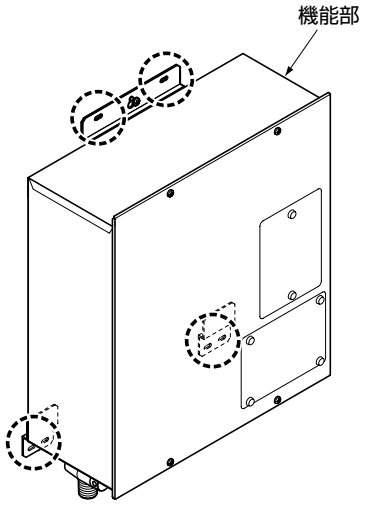
⚠ 警告	必ず実行	●設置する壁には、機器の重量が加わりますので、十分な強度がない場合は補強工事をする ●機器を設置する場合、落下させたり、衝撃を加えたりしない ・機器内部の部品が破損することがあり危険です。 ●必ず垂直な壁に取り付ける ●機器に接続する配管設備は、地震その他の振動または衝撃に対して安全上支障のないよう設置し、給水・給湯及び電気配線の壁貫通部はコーキング材でシールする

（3）機能部取付けのネジ穴の位置決め

①機能部取付の仮止め用の下穴をあけ、カールプラグ（現場手配）を打ち込みタッピンネジ（現場手配）を仮止めし、機能部の取付板（上）をタッピンネジに引っかける



②ネジ穴位置（上下各２カ所）を決め、機能部を一旦外す

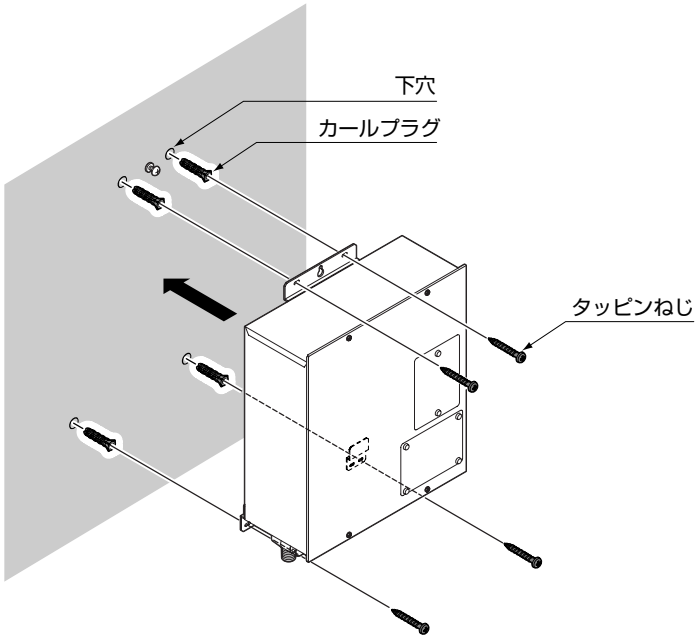


（4）機能部の取付け

①決めたネジ穴位置に、ドリルで下穴をあけてカールプラグ（現場手配）を打ち込む

②機能部を仮止めのタッピンネジに再度引っかけ、タッピンネジ（上下各２本）で固定する

③機器を取り付けたネジから建物内に水が入らないように防水処理をする



（5）設備配管工事

■配管上のご注意

・配管材料が関係水道局で指定されている場合は、それにしたがうこと。
・機能部に接続する前に必ず水を流して配管内の切粉・砂・ゴミなどを排出する。
・接続口にはユニオン継手などを使用し、無理な力をかけないようにする。
・配管口径は、機能部の接続口径（給湯、給水接続口R1/2、湯はり接続口R3/4）以下にしない。
・水圧が高い場合は、減圧弁を入れるか、ウォーターハンマー防止措置を行う。(推奨水圧0.20 ～ 0.75MPa)
・継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管はしない。また配管途中に空気溜りのできるような配管はしない。

●給水・給湯配管

・給水・給湯接続口付近に逆止弁と止水栓または、逆止弁付止水栓を取り付ける。
・この機器をお客様に快適に使っていただくには、給水・給湯圧力が0.20 ～ 0.75MPaは必要です。
水圧が低い場合には、機器の能力が十分発揮されません。その場合は加圧ポンプを設置するなどの対策を行ってください。

●湯はり配管

・湯はり配管の最大延長は15m10曲がりです。
・水抜き時、水抜き栓から水が抜けやすいように勾配をつけてください。
・水抜き配管先端と排水口は適切な吐水空間を設けてください。
空間がないと、溜まった水が逆流するおそれがあります。

（6）湯はり配管の水漏れ検査

⚠ 注意	必ず実行	機器本体を加圧しない 検査圧力と時間：0.3MPaで５分間以上

①湯はり配管の一方にバルブを取り付ける（バルブ開）

②他方に加圧ポンプを取り付け、湯はり配管内に水を送る

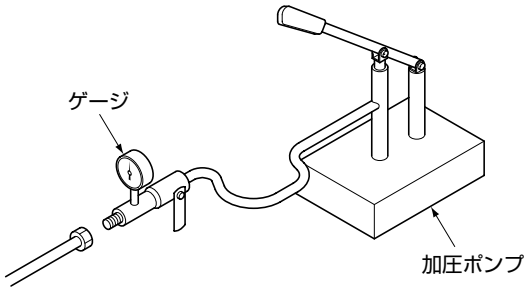
③湯はり配管内のエアが抜け、水で満たされたら取り付けたバルブを閉じる

④水漏れ検査を実施する

検査圧力と時間：0.3MPaで５分以上

・検査に使用する圧力計は、検査圧力に見合ったものを使用します。
・水漏れおよびゲージの圧力低下がないか確認します。

※機器本体を加圧しない。

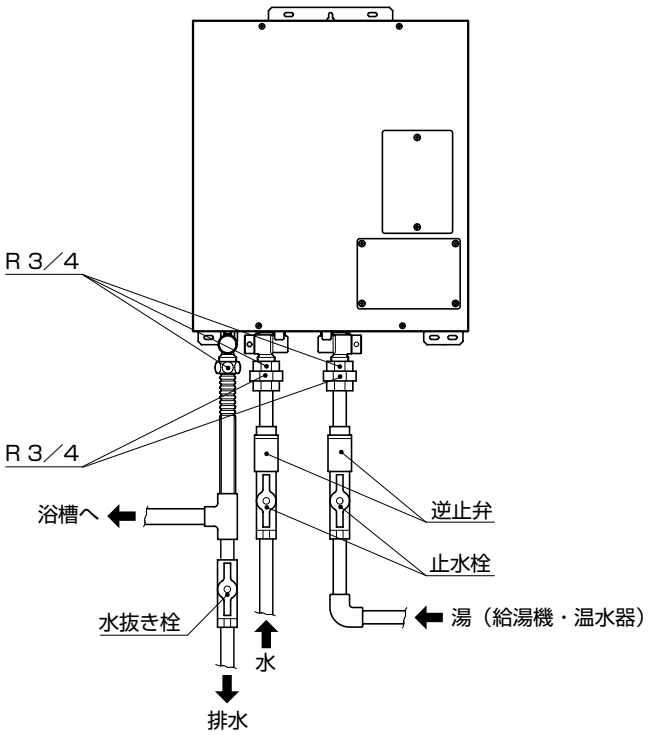


※圧漏れが発見された場合、漏れ箇所を修正後、再試験を行います。

（7）給水・給湯・湯はり配管工事

①これまでに説明したそれぞれの配管を機能部の接続口に接続する

※接続はシールテープやヘルメシールを合わせて使用してシールをしてください。



②給水・給湯配管の止水栓を開けて接続部などから漏れがないことを確認する

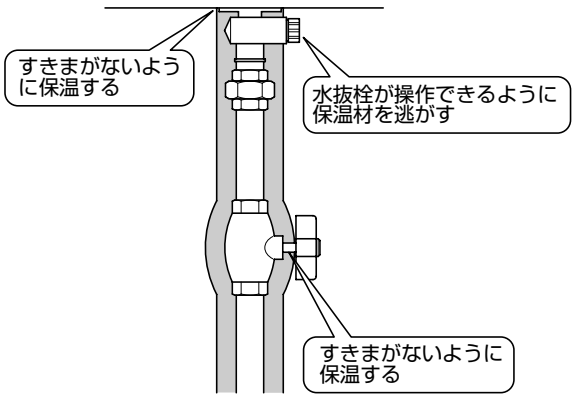
③浴槽の器具とケーブルの接続及び電源コードの接続後、湯はりを行い、湯はり配管の接続部（機能部側と浴槽側の２カ所）から漏れがないことを確認する

●凍結予防（機器、配管の凍結の恐れがある場所に設置する場合は必ず実施してください。）

・凍結予防のため、地域に応じた保温処理（保温材、電気ヒータ等）をする。

・給水・給湯・湯はり配管からの水漏れがないことを確認したのち、配管を完全に保温する。

・配管内の水抜きができるように水抜栓を保温材で包み込まない。



7−3 機能部（エアブロー）の設置と接続

●エアブローの取付説明書「機能部（エアブロー）の設置と接続」を参照してください。

7−4 電気工事

●電源の確認

⚠ 警告

アース接続　**電気工事は、関連する法令・法規にしたがって、必ず「有資格者（電気工事士）」が行う**

・誤った工事を行うと、故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

禁　止　**電源コードの加工や延長コードの使用、又は他の器具とのタコ足配線をしない**

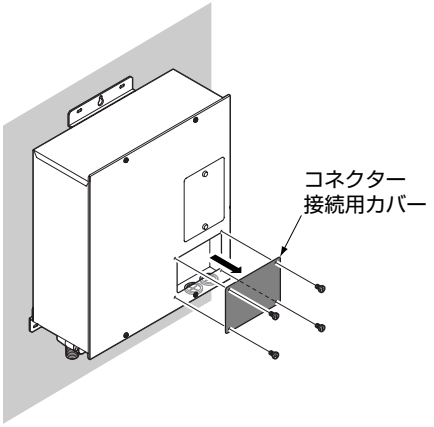
・感電や発熱・火災の原因となります。

この機能部の電源は交流100V（50/60Hz）消費電力は750～1150 Wです。

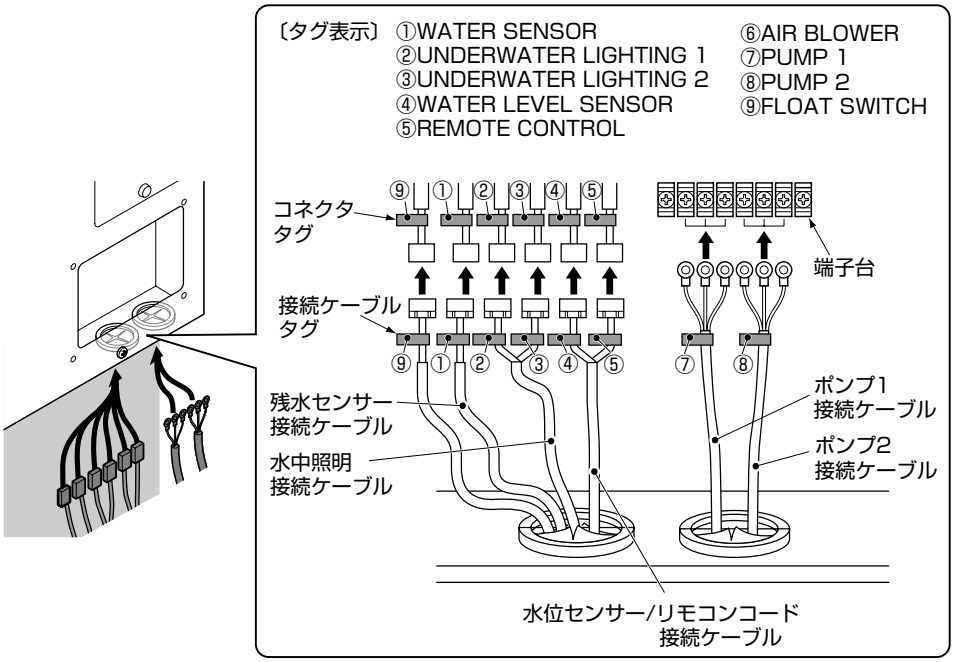
湯はりユニット

●浴槽の器具とのケーブルの接続

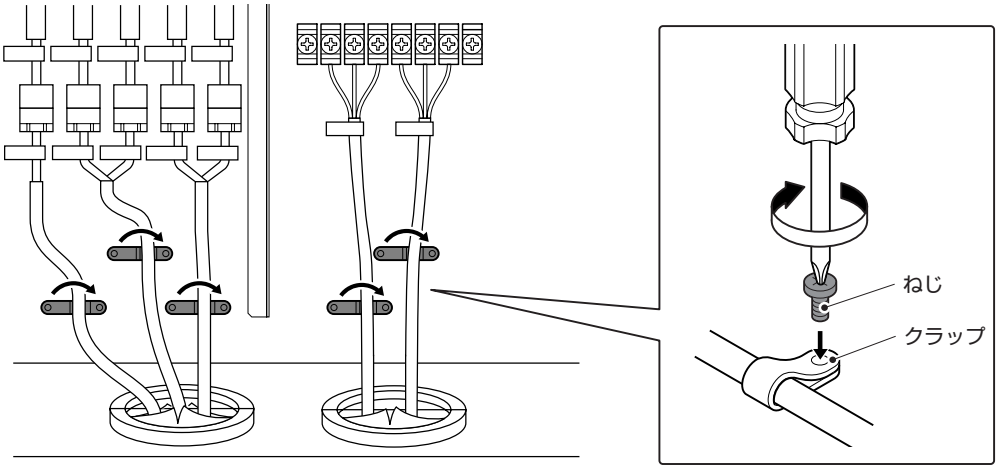
①コネクター接続用カバーを外す



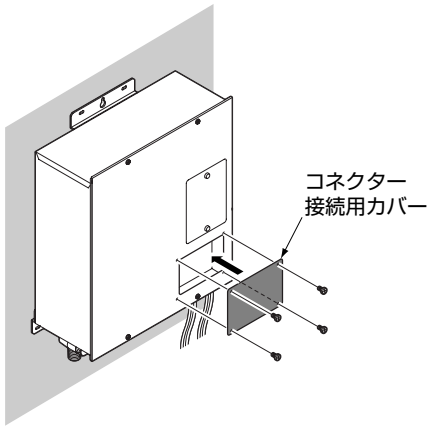
②底面の穴よりポンプ１接続ケーブル、ポンプ２接続ケーブルを引き込み、各コネクタと接続する。コネクタと接続ケーブルタグの表示が合っていることを確認する



③接続ケーブルにクランプをセットし、ねじで固定する（8カ所）



④接続後、カバーを取り付けて完了



エアブロー

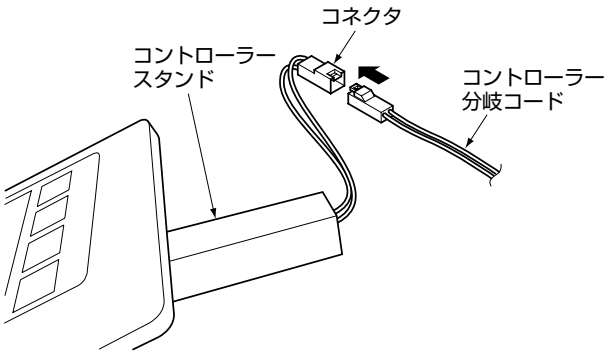
●エアブローの電気工事は、エアブローの取付説明書「電気工事（エアブロー）」を参照してください。

7−5 確認及び試運転

本体への通電確認を行い、取扱説明書の内容にもとづき試運転を行ってください。正常に作動することを確認のうえ、お客様に使用方法を説明して、お引渡しください。

■コントローラーの接続

付属のコントローラー分岐コードをリモコン接続ケーブルと接続後、コントローラースタンド本体のコネクタと接続する。



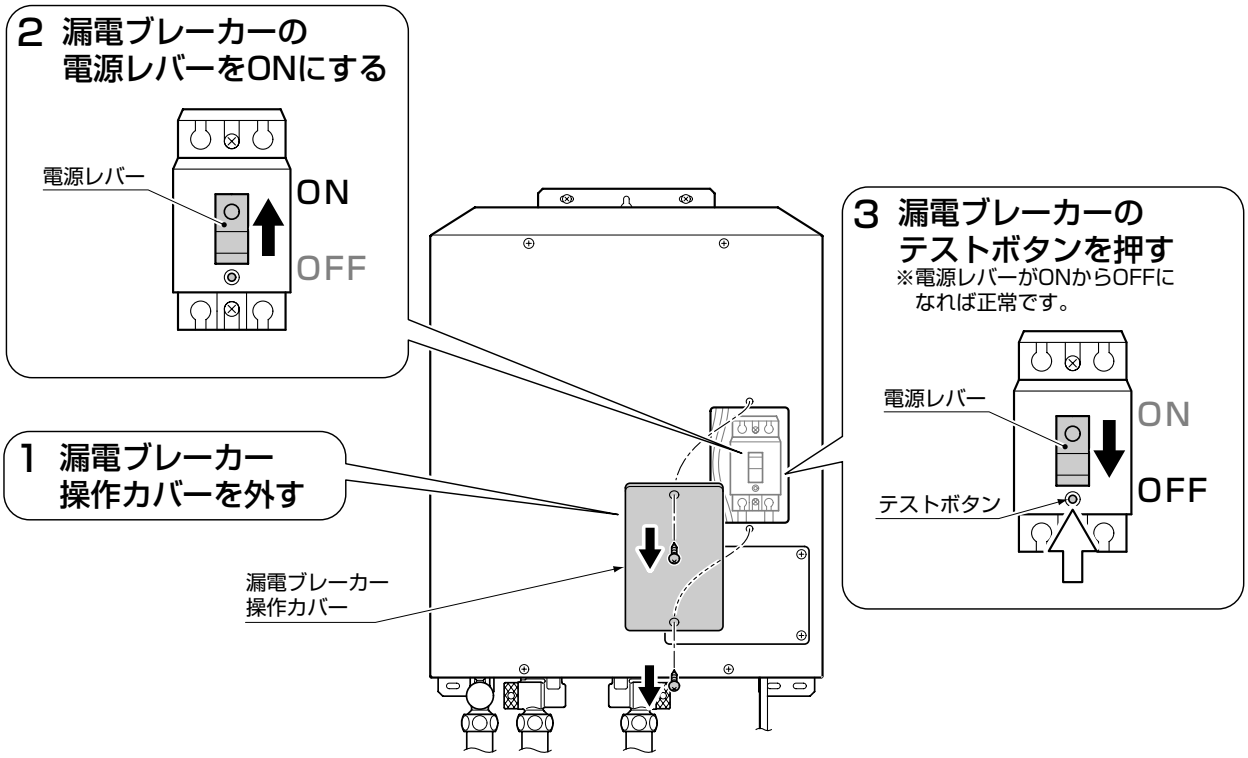
■湯はりユニット本体の通電確認

⚠ 警告

必ず実行

取付完了後、漏電ブレーカーの作動確認を必ず行う

・漏電ブレーカーが正常に作動しないと感電や火災の原因となります。



■フロートスイッチの動作確認

⚠ 警告

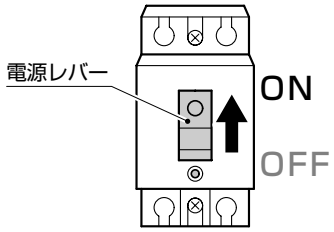
必ず実行

取付後、フロートスイッチの動作確認を必ず行う

・フロートスイッチが正常に作動していないと、漏水により家財などを汚したり、腐らせるおそれがあります。

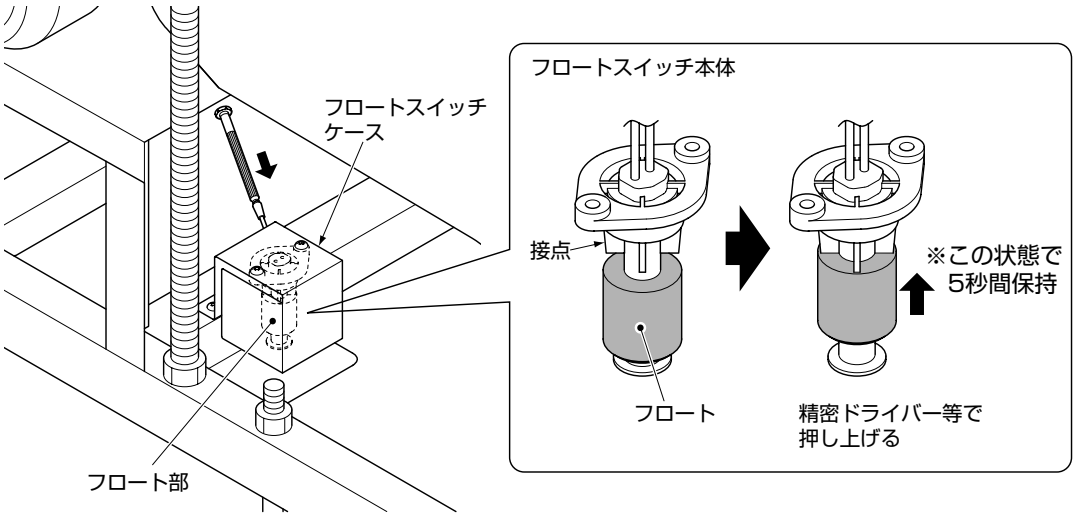
（1）動作確認手順

①電源ブレーカーの電源レバーをONにする



②コントローラーの入/切ボタンをONにする

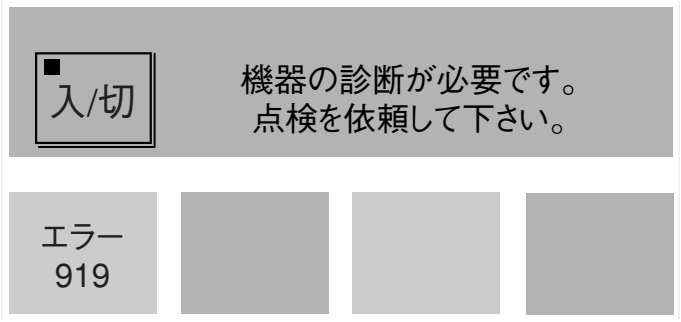
③フロートスイッチケースのすき間から精密ドライバー等を差し入れ、フロートスイッチのフロート部分を上方へ押しあげる



④フロート部分を接点に押しあてた状態で約５秒保持する

⑤リモコンに エラー 919 が表示されることを確認する（アラームが鳴り、お知らせします。）

エラー 919 が表示されればフロートスイッチは正常に作動しています。



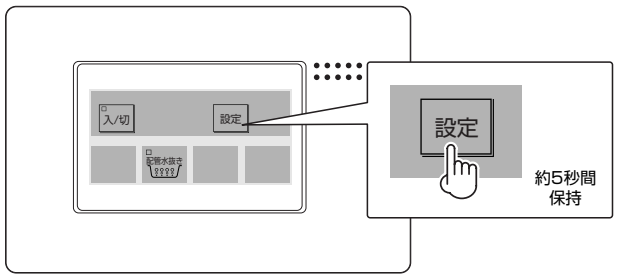
⑥P34「(2) エラー解除手順」へ進み、エラーを解除してください。

（2）エラー解除手順

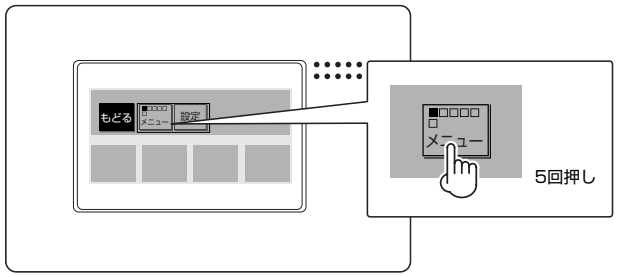
フロートスイッチの動作確認終了後、エラーの解除を行います。

① 入/切 をOFFにし、②の画面にする

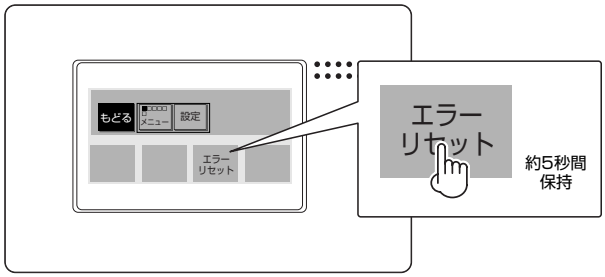
② 設定 を約５秒間押し続け、③の画面にする



③ メニュー を５回押し、④の画面にする

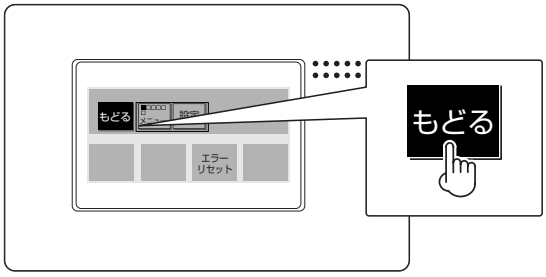


④ エラーリセット を約５秒押し続ける



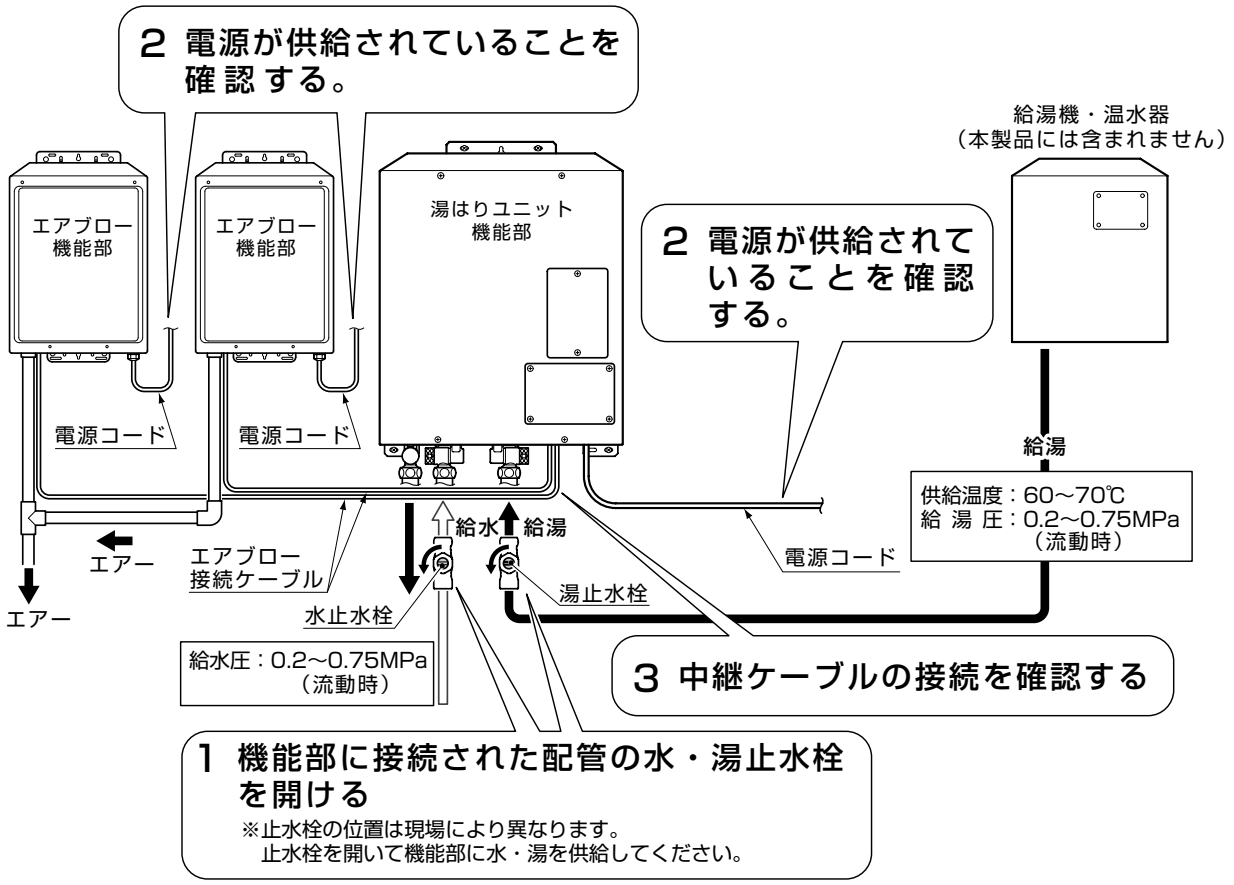
⑤ブザーが鳴り、 エラーリセット の表示が消える

⑥ もどる を押し、②の画面へ戻ればエラーの解除は終了です



■試運転準備

※浴槽が空であることを確認してから漏電ブレーカーをONにしてください。



■試運転

（1）～（6）の順にしたがって操作してください。

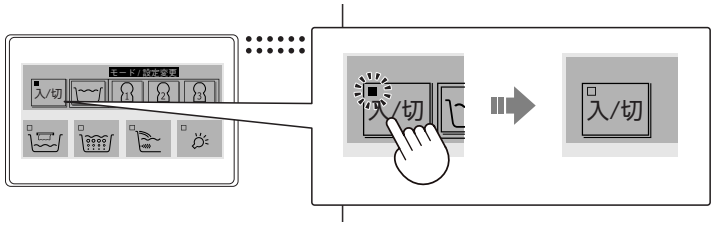
※詳しい運転のしかたについては、取扱説明書をご覧ください。

（1）浴槽データリセット

①浴槽の排水栓を開けて、浴槽を空にする

②コントローラーの入/切ボタンをOFFにする

③ 入/切 をONにする



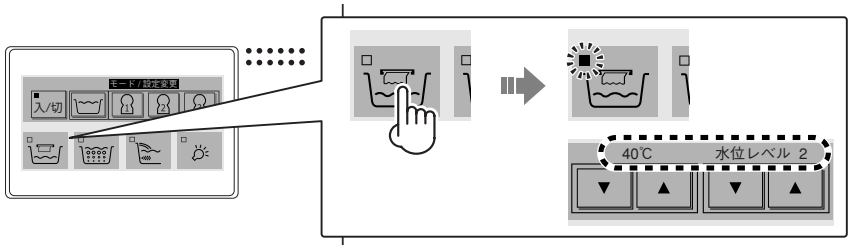
浴槽の中に水が残らないように浴槽の排水栓を開けておいてください。

排水運転は約2分たつと自動的に終了します。

（2）湯はり運転の確認

①浴槽の排水栓を閉めて、コントローラーの入/切ボタンをONにする

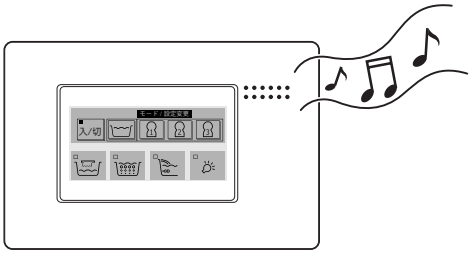
② をONにする

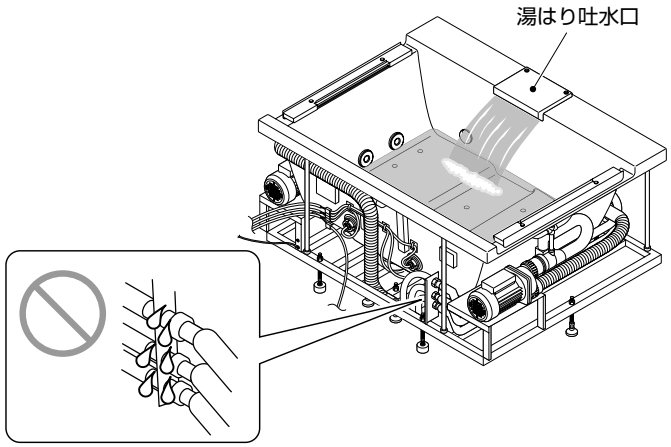


③湯はり吐水口からの湯はりが開始することを確認する

④配管に漏れがないか確認する

⑤湯はりが正常に完了するまで待つ
※水圧により異なりますが、約20分～25分かかります。
湯はりが完了すると、メロディでお知らせし、自動的に終了します



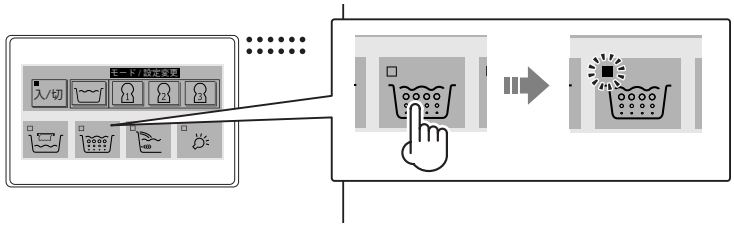


（3）エアブロー運転の確認

※湯はり完了後、浴槽に湯水が溜まっている状態で実施してください。

①コントローラの入/切ボタンをONにする

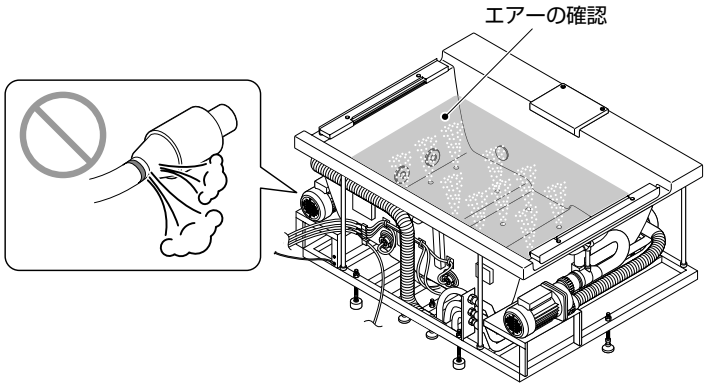
② をONにする



③浴槽底面のノズルからエアが出ていることを確認する

④接続部から **エア漏れ** がないか確認する

⑤ をOFFにしてエア噴出を止め、接続部から **漏水がないかを確認** する

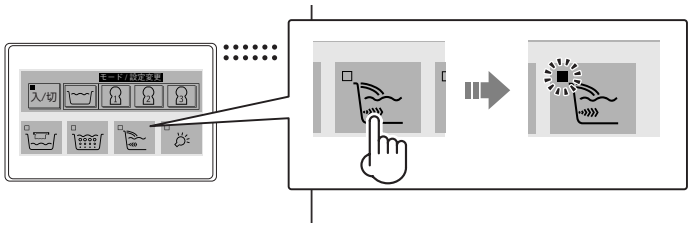


（4）ハイドロハンズ・肩湯運転の確認

※湯はり完了後、浴槽に湯水が溜まっている状態で実施してください。

①コントローラーの入/切ボタンをONにする

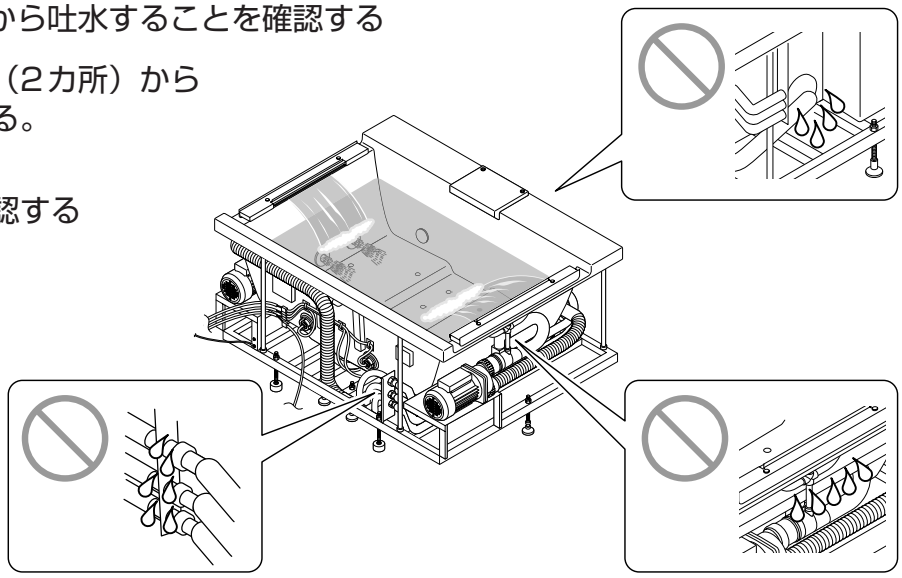
② をONにする



③肩湯吐水口（2カ所）から吐水することを確認する

④ハイドロハンズノズル（2カ所）から
吐水することを確認する。

⑤配管に漏れがないか確認する

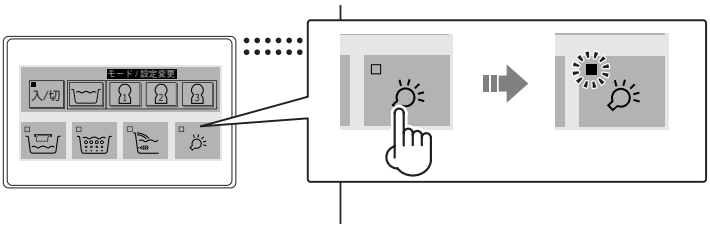


⑥ をOFFにする

（5）水中照明運転の確認

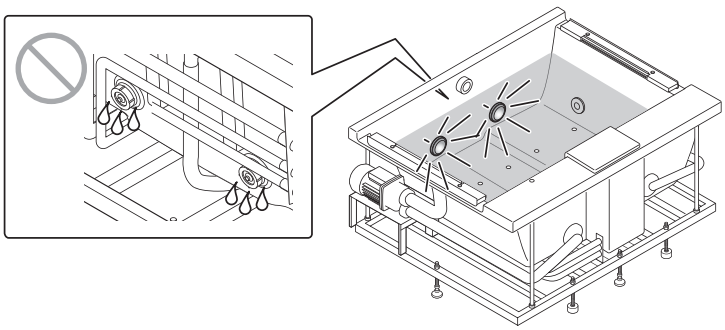
①コントローラーの入/切ボタンをONにする

② をONにする



③照射部（2カ所）が点灯することを確認する

④照射部から水漏れがないか確認する

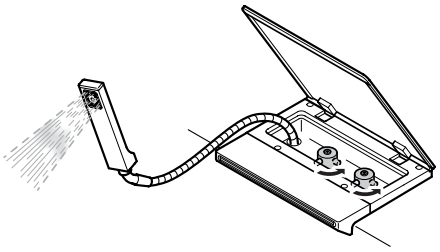


⑤ をOFFにする

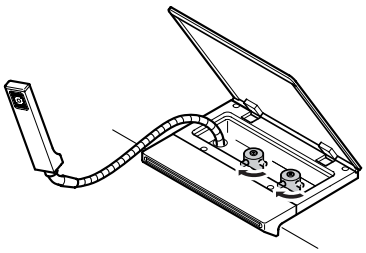
（6）シャワーの確認

①排水栓カバーをあけ、シャワーヘッドを取り出す

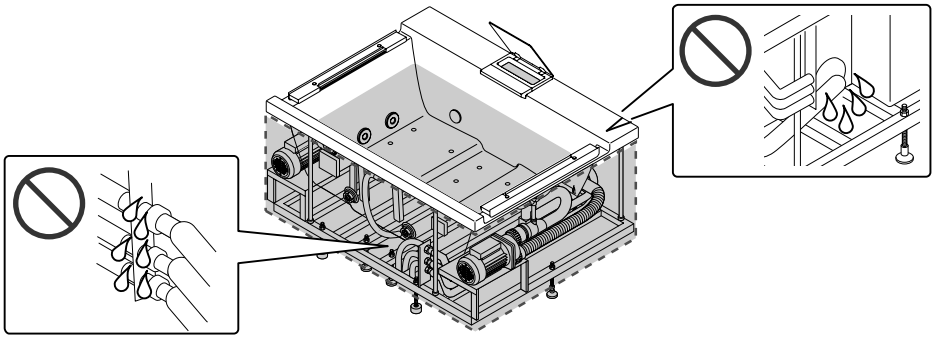
②シャワーヘッドを浴槽内に向け、給水栓と給湯栓を全開にし、シャワーヘッドからの吐水を確認する。



③10分後、給水栓と給湯栓をしめる



④配管に漏れがないか確認する



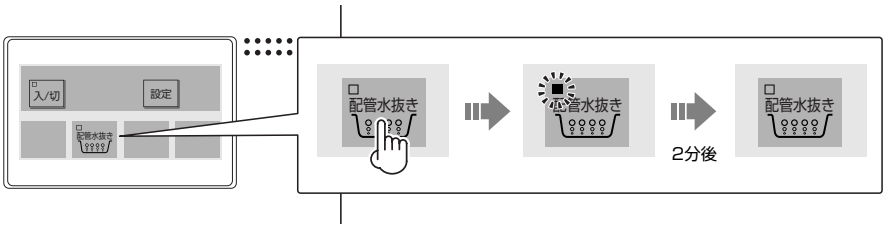
（7）排水運転の確認

①浴槽の排水栓を開けて、浴槽を空にする

②コントローラーの入/切ボタンをOFFにする

③

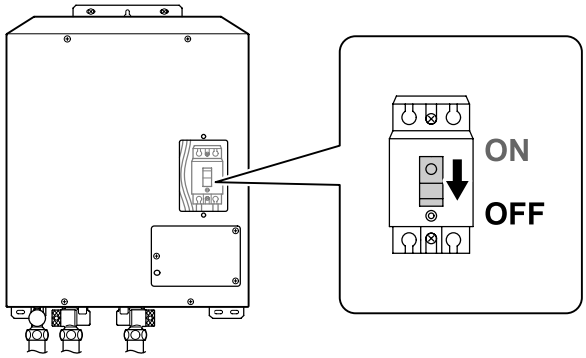
をONにする



浴槽の中に水が残らないように浴槽の排水栓を開けておいてください。
排水運転は約２分たつと自動的に終了します。

（8）試運転の終了

●湯はりユニットのコンセントを抜く

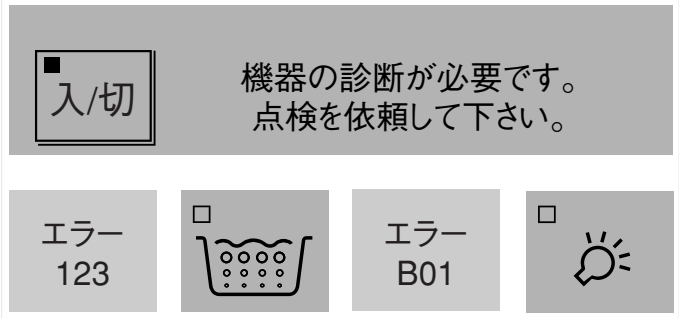


●エアブローのコンセントを抜く
●コントローラーと分岐コードおよび接続しているコネクタを抜く

■不具合時の対処方法

試運転時に不具合があった場合は、別冊の取扱説明書の「故障かな？と思ったら」をご確認ください。

エラーコードを表示する場合について



Error Code	原　因	処　置
032	排水栓忘れ	＊浴槽の排水栓は閉まっていますか？
079	湯切れ	＊給湯機から十分な湯がきていますか？ ・給湯機の設定温度・作動を確認してください。
152	入水温度異常	＊機能部（湯はりユニット）の水接続口にお湯が供給されていませんか？ ・機能部への配管の接続を確認してください。
262	水位センサ断線	＊水位センサのケーブルは接続されていますか？ ＊水位センサのケーブルに断線はありませんか？
572	断水	＊元栓・止水栓は開いていますか？
B01 B02	肩湯ポンプ 回路異常	＊機器の使用を中止して、修理をご依頼ください。
その他	－	エラーリセット後、再度使用してみてください。

エラーリセット方法

エラーコードを表示したボタンを操作するとエラーリセットできます。

エラーコードを表示しない場合について

コントローラーが点灯しない

・コントローラーのケーブルは接続されていますか？
・コントローラーのケーブルに断線はありませんか？
・機能部に電源が供給されていますか？

エアブローが作動しない

・エアポンプのケーブルは接続されていますか？
・エアポンプのケーブルに断線はありませんか？

水中照明が点灯しない

・水中照明ケーブルは接続されていますか？
・水中照明ケーブルに断線はありませんか？

※その他の事象については取扱説明書を参照してください。

■水抜栓ストレーナの掃除

配管内のゴミがストレーナにたまりますので、配管接続後の通水試験後、および試運転後は必ず掃除を行ってください。

注意

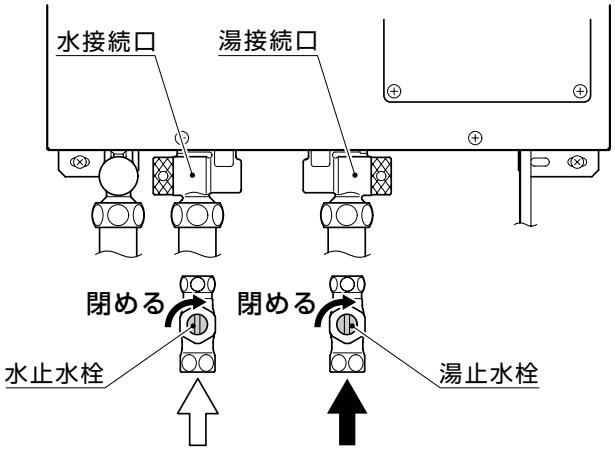
お客様への引渡しまで期間がある場合や長期間使用しないときは、
機能部の水抜きをし、電源を落としてください。（取扱説明書参照）

**※湯はり吐水口からの吐水後は、機能部内のお湯が高温になっています。
やけど防止のため機器が冷えてから行ってください。**

※水抜栓から水・湯がでますので、機能部の下にバケツなどの容器を置いて排水を受けてください。

①接続口に接続された配管の水・湯止水栓を閉める

※止水栓の位置は現場により異なります。



②コントローラーの をONにして20秒程度待つ

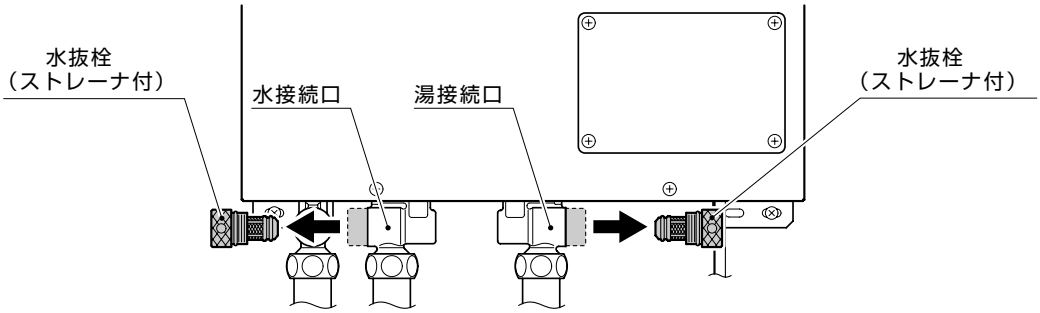
※入/切ボタンはOnで操作してください。

③湯はり吐水口から吐水しないのを確認したら入/切ボタンをOFFにする

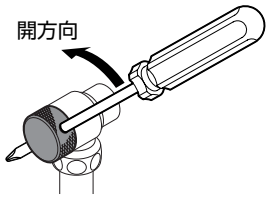
・吐水が続く場合は入/切ボタンをOFFにして再度、①から行ってください。
コントローラーにエラーコード572を表示する場合があります。
・これは断水のお知らせです。エラーリセット（40ページ参照）後、入/切ボタンをOFFにして手順④に進んでください。

④水・湯接続口の水抜栓を外す

※水抜栓を外したとき、機能部内の湯水が出てきますので注意してください。

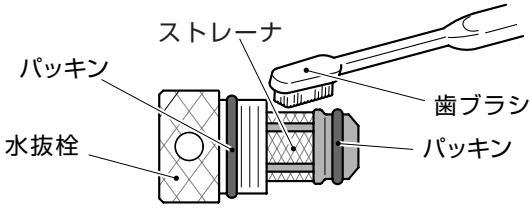


※水抜栓が手で回して外れないときはドライバーなどの工具を水抜栓の○穴に差し込んで工具とともに回してください。



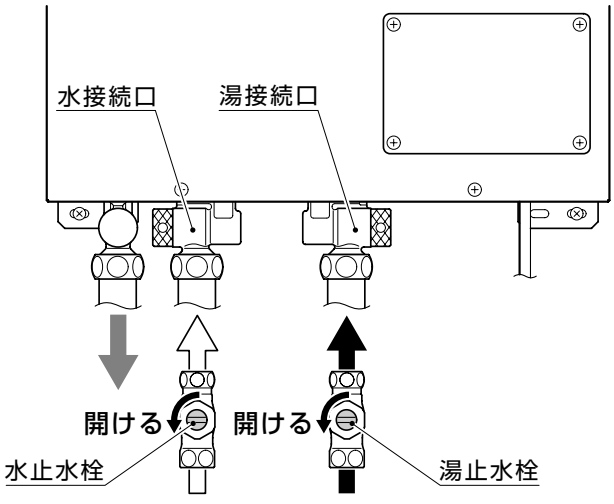
⑤ストレーナ部分を歯ブラシなどで水洗いする

※パッキンはゴミなどを付着させたり、傷つけたりしないでください。水漏れが発生したり、機能部内にゴミが入って故障の原因になります。



⑥元どおりに水抜栓を水・湯接続口に取り付ける

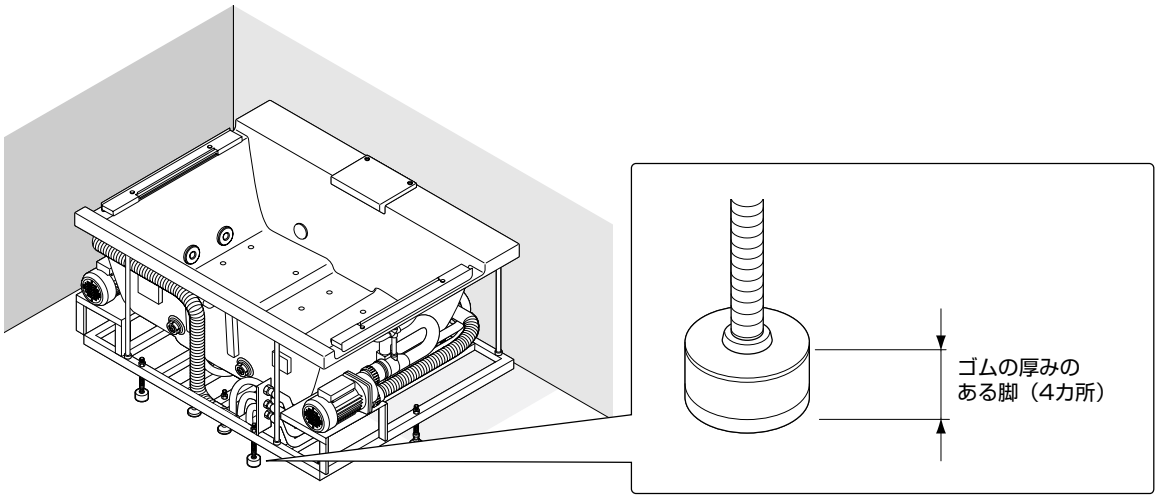
⑦水・湯止水栓を開け、水抜栓の周囲に水漏れが無いことを確認する



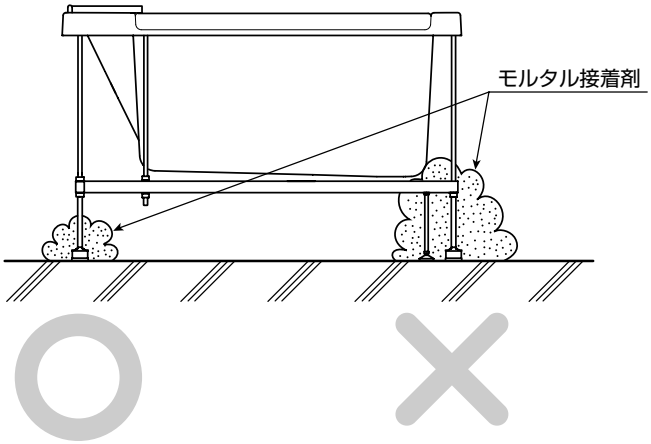
7−6 仕上げ

（1）浴槽の固定

①下部脚（４カ所）にモルタルや強力接着剤をつけ確実に固定します。



注　浴槽本体にモルタルや強力接着剤をつけないようにご注意ください。



⚠ 注意

必ず実行

浴槽の据付けは、モルタルや強力接着剤で確実に固定する

・確実に固定しないと、浴槽ががたつく原因となります。

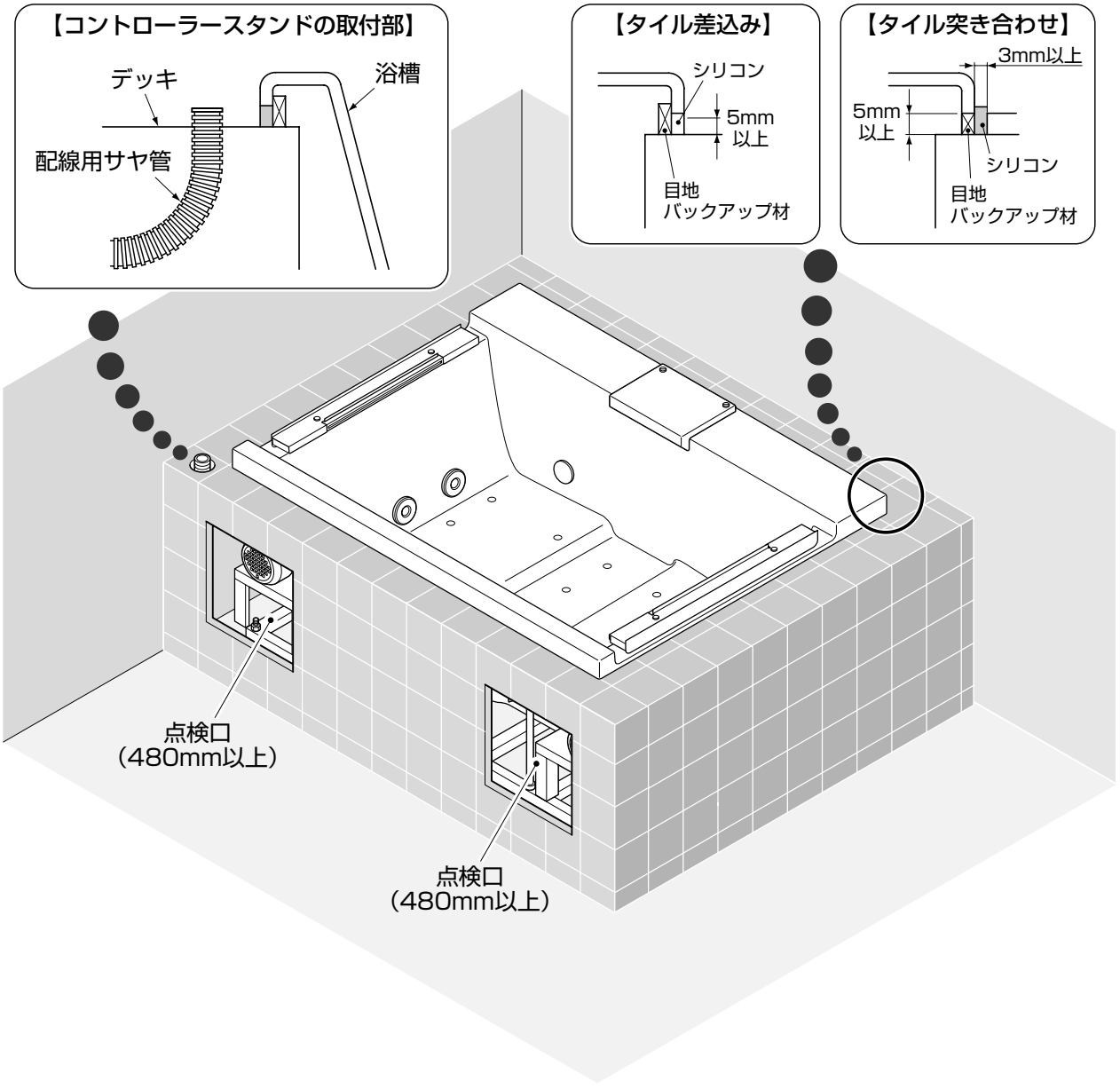
(2) タイル仕上げ

●全周にデッキを設けてエプロン施工及びタイル貼りしてください。

※デッキを設ける前に浴槽に水を張り、試運転および配管接続部の漏水の有無を確認してください。
試運転についてはP35 を参照してください。

※デッキ面はタイルを貼る前にリモコンスタンドの取付位置を決め､ケーブル用のサヤ管を通しておいてください。

※浴槽とタイルとの間には必ず隙間を確保し、(脱)アルコールタイプのシリコンを使用して浴槽とタイルの隙間に目地を充てんしてください。



※目地バックアップ材は現場にて手配願います。
また、デッキエプロン施工の場合、目地バックアップ材は必ず浴槽据付け前にデッキ面もしくは浴槽リムの裏面に貼り付けてください。浴槽据付け後では目地バックアップ材を入れられない場合があります。

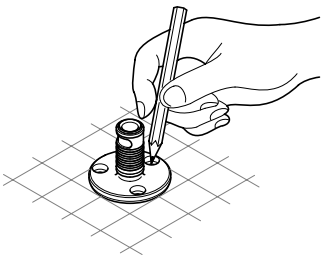
7−7 コントローラースタンド設置

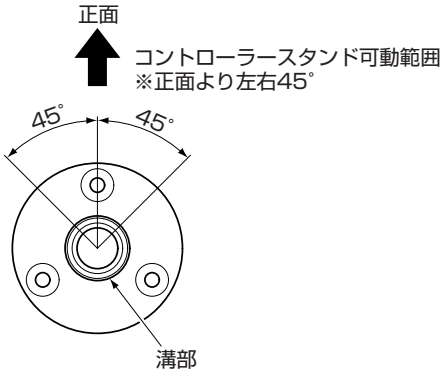
（1）下穴けがき・穴あけ・プラグ取付け

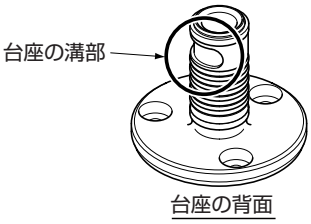
①デッキ面から出ている電線用サヤ管を切り取る

②サヤ管が中央に収まるように台座を置き、取付け方向に注意して台座固定用の３カ所の穴にけがきを入れる

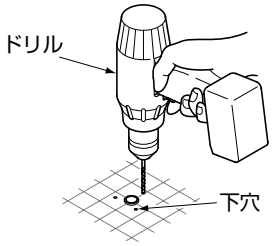
※取付方向に際しては溝部の位置および正面位置に注意し、コントローラーの可動範囲を考慮した位置で固定してください。







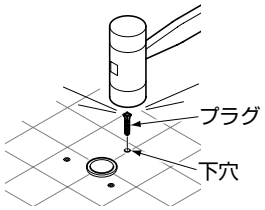
③けがいた位置に、下穴をプラグのサイズに合わせてドリルであける
（プラグは、十字穴なべタッピン４×30のサイズに合わせて選定してください）



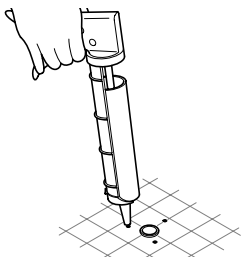
④穴の位置が、タイル下地の空洞部にないか確認する
空洞だった場合は、接着系アンカーを使用して固定してください。

⑤下穴を空気の吹き込み等の方法で掃除します。

⑥プラグを下穴に入れ、打ち込む

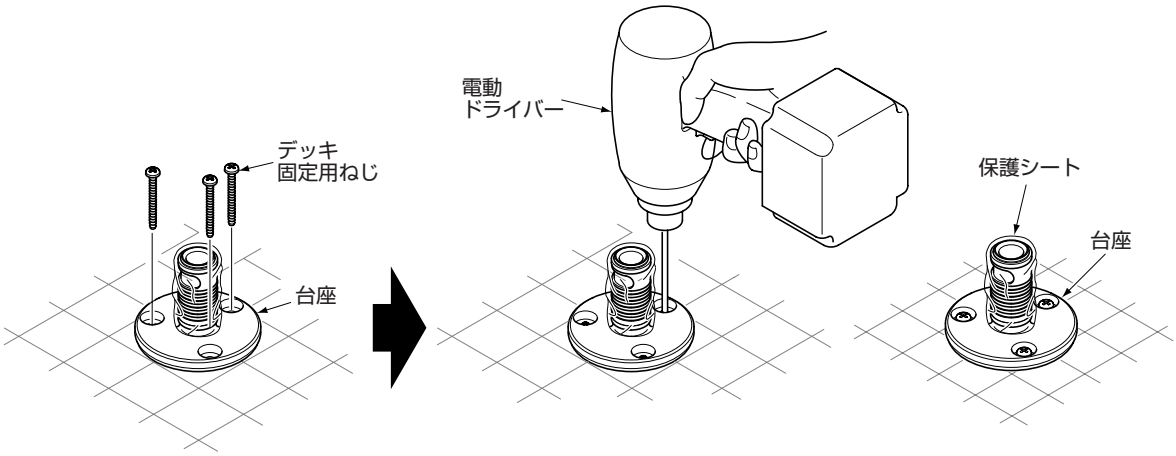


⑦水の浸入防止のため、プラグのすき間と穴部にシーリングを行う



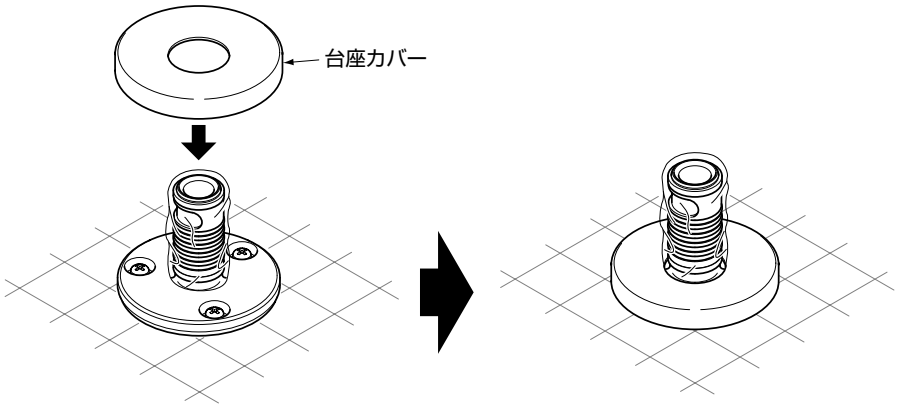
(2) 台座の取付け

①台座を付属のねじにて、取付け方向を間違えないように取付ける



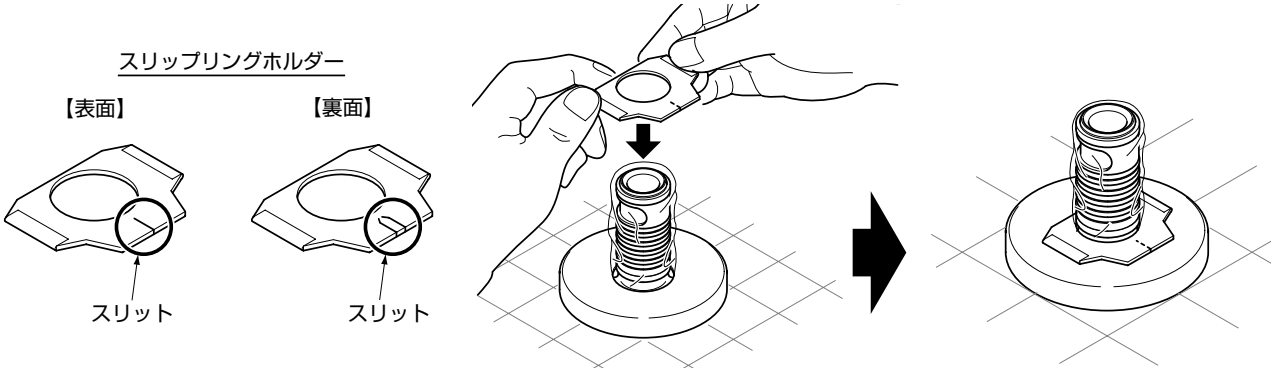
禁　止	**台座の保護シートを、外さない** ・Oリングの破損やゴミ付着により、動作不良などの不具合を起こす場合があります。 ・スリップリングの取付作業が困難となり、スリップリングが変形/破損する場合があります。

②台座カバーを取付ける



(3) スリップリングの取付け

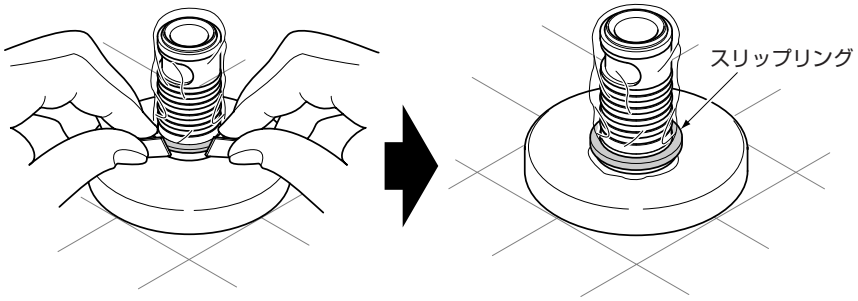
①スリップリングホルダーの表裏の向きを間違えないようにして、台座に差し込む



必ず実行	**スリップリングは必ず取付ける** ・付け忘れると、台座カバーとスタンドが接触し台座カバーを傷つけます。

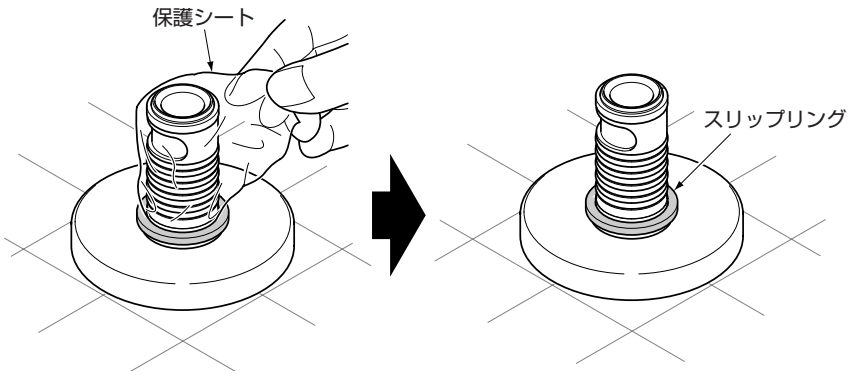
必ず実行	**スリップリングの取付けは丁寧に行う** ・スリップリングが「伸びたり」「変形」することにより本来の機能を果たさなくなります。

②スリップリングホルダーのスリットが入っている部分を左右に裂いて、スリップリングを残した状態でリングホルダーを台座から外す



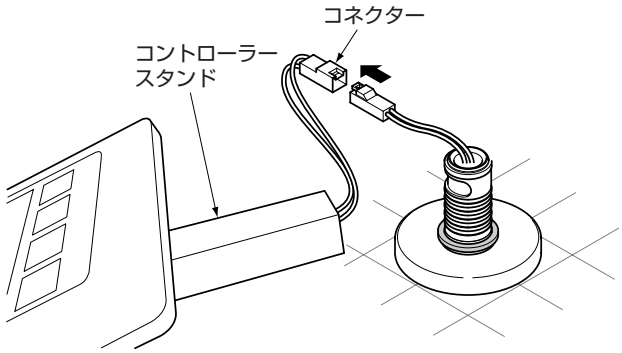
③台座の保護シートを外す

※保護シートは丁寧に外してください。スリップリングが変形/破損する場合があります。

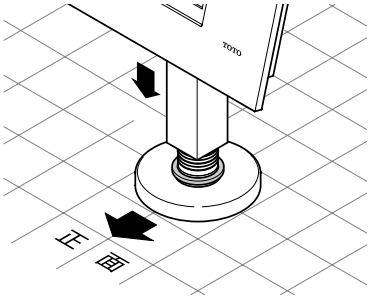


(4) コントローラースタンドの取付け

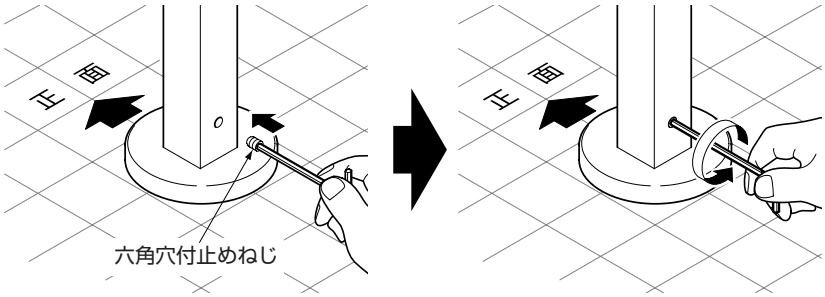
①付属の分岐コードを信号接続ケーブルと接続（7－1　浴槽下地づくり～浴槽据付け（6））後、サヤ管を通して台座より取り出し、コントローラースタンド本体のコネクターと接続する



②コントローラースタンド本体を台座に差し込む



③コントローラースタンドの背面にあるねじ穴と台座の溝部を合わせ、付属の六角穴付止めねじを固定する
ねじが止まるまで締め付けた後、止まった位置から逆回りに180～360°戻す
※このとき、ねじが突き出さないように注意してください。

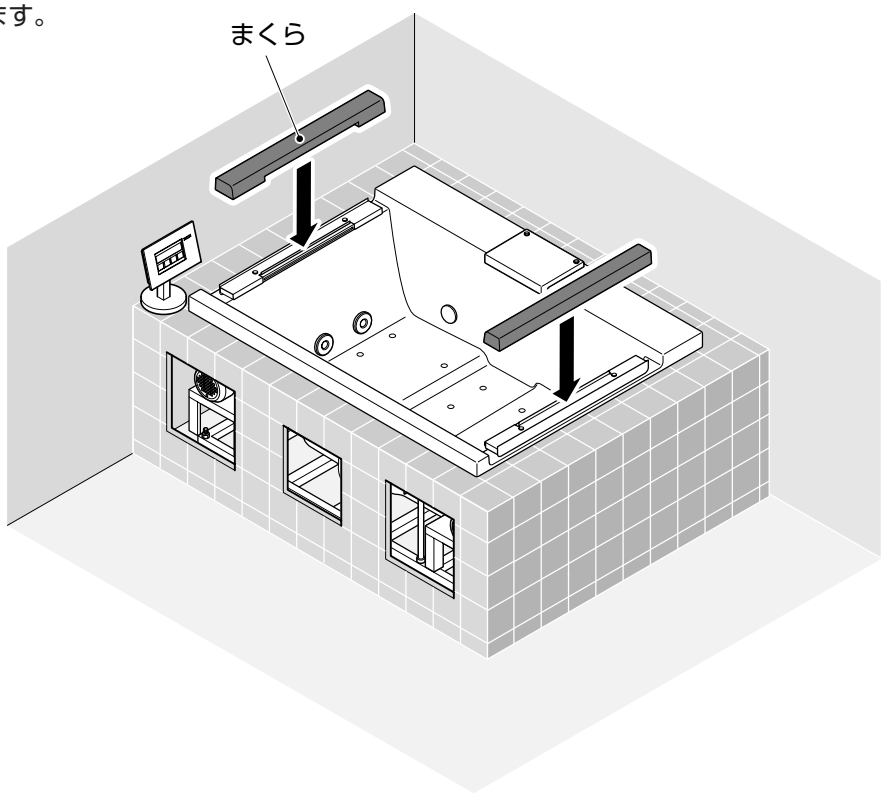


注　意	**作業中にコントローラースタンドを落とさないように注意する** ・施工者がけがを負ったり、浴槽やタイルが破損する可能性があります。

必ず実行	**ねじは必ず戻す** ・戻し忘れにより、コントローラースタンドの首振りができなくなります。

7−8 まくらの取付け

●まくらを取り付けます。



7−9 配管取出口カバーの取付け

●エアブローの取付説明書を参照してください。

7−10 最終確認

●全ての取り付けが完了したら「確認および試運転」の要領で再度試運転・確認を行ってください。

MEMO

2010.2
J06352